

小学校の外国語活動及び英語活動等に関する
現状調査

《国公立小学校 対象》

プレスリリース用
報告書

平成 25 年 7 月

公益財団法人 日本英語検定協会

調査実施概要

<回答者の属性>

<調査結果>

- 問 1. 今年度の外国語活動及び英語活動の年間実施時間数について
- 問 2. 4年生以下の英語活動について
- 問 2-1. 4年生以下の英語活動の有無について
- 問 2-2. 4年生以下の英語活動に対する考えについて
- 問 2-3. 4年生以下の英語活動の環境条件の整備について
- 問 2-4. [問 2-2 で「3・4年生」または「1・2年生」の選択肢で1～3と回答した方]
英語活動を円滑に実施するための環境整備について
- 問 3. 「外国語活動及び英語活動の担当者」と「使用している教材」について
- 問 4. 今年度の外国語活動及び英語活動に関する研修会や研究発表会への参加について
- 問 5. 今年度に教員研修を実施または予定がある場合について
- 問 5-1. 今年度の教員研修の教材について
- 問 5-2. 今年度の教員研修の指導者について
- 問 5-3. 特に必要と思う研修内容について
- 問 6. 5・6年生の外国語活動を実施するにあたっての環境の整備について
- 問 7. 現在外国語活動において問題や課題であると感じていることについて
- 問 8. 外国語活動の導入をふまえた小学校と中学校の連携（小中連携）について
- 問 8-1. 自校や近隣の地区での小中連携の取り組みについて
- 問 8-2. [問 8-1 の選択肢で1または2と回答した方]
どのような方法で小中連携を行っているかについて
- 問 8-3. [問 8-1 の選択肢で1または2と回答した方]
小中連携の良い点について
- 問 8-4. [問 8-1 の選択肢で1または2と回答した方]
小中連携の課題点について
- 問 9. 外国語活動必修化導入され1年以上経過したが5・6年生の外国語活動はスムーズに進んでいるかについて

問 10. 外国語活動及び英語活動の導入が小学校や児童に与える影響や変化について

問 10-1. どのような影響がある（あった）かについて

問 10-2. 児童の英語力になんらかの良い変化や成果はあったかについて

問 10-3. 外国語活動及び英語活動に関して欲しい情報について

<以上>

調査実施概要

1. 調査機関

公益財団法人 日本英語検定協会

2. 調査テーマ

小学校の外国語活動及び英語活動等に関する現状調査

3. 調査対象

全国の小学校(国公立)から抽出した 5,207 校

4. 調査目的

平成 23 年度より小学校高学年に外国語活動が導入され 1 年以上が経過し、さらに中・低学年への英語活動の取り組みにも動きがある今日、小学校現場において、カリキュラムの編成・指導方法・教材の選択・研修などについてどのような取り組みを行っているのか、また、どのような不安要素や課題を抱えているのかを、外国語活動及び英語活動等に関する設問によるアンケートを実施し、現状を浮き彫りするための調査を行う。

5. 調査期間

平成 24 年 12 月

6. 調査方法

送付、回収ともに郵送によるアンケート方式

7. 送付数・回収結果

調査対象	送付数	回収数	回収率
国公立小学校	5,207 件	1,309 件	25.1%
(内訳)			
国立	73 件	25 件	34.2%
公立	4,920 件	1,221 件	24.8%
私立	214 件	59 件	27.6%

*回収件数 1,309 件の内、設置者（学校種別）の未記入校が 4 校含まれます。

(注) 単位表記について

この報告書では、パーセント表示した割合の変化を表す数値（差）の単位として「ポイント」を使用しています。この単位の正式名称は「パーセントポイント」または「パーセンテージポイント」といい、「ポイント」はその略称で、「パーセントで表された 2 つの数値の差」を示します。本報告書では前年度比較をする場合などに、%値の差の単位として「ポイント」表記をしています。

調査結果

※ 本調査の報告書コメントに関して

本調査と同様の調査を昨年度も実施しており、本調査報告書コメントには、昨年度調査データとの比較（上回ったなどの単純比較や数値的比較）を必要に応じて行い、その変化を記載しています。

問 1. 今年度の外国語活動及び英語活動の年間実施時間数について、学年ごとに1つずつ選んでください。

外国語活動の実施時間について、今回は無回答がすべての学年で前年度よりも減少、特に1～4学年で全体に占める無回答の割合が4ポイント以上下がったのが目立った。これは、5・6学年における外国語活動必須2年目に当たり、学校全体で活動に取り組めるようになったためと考えられる。

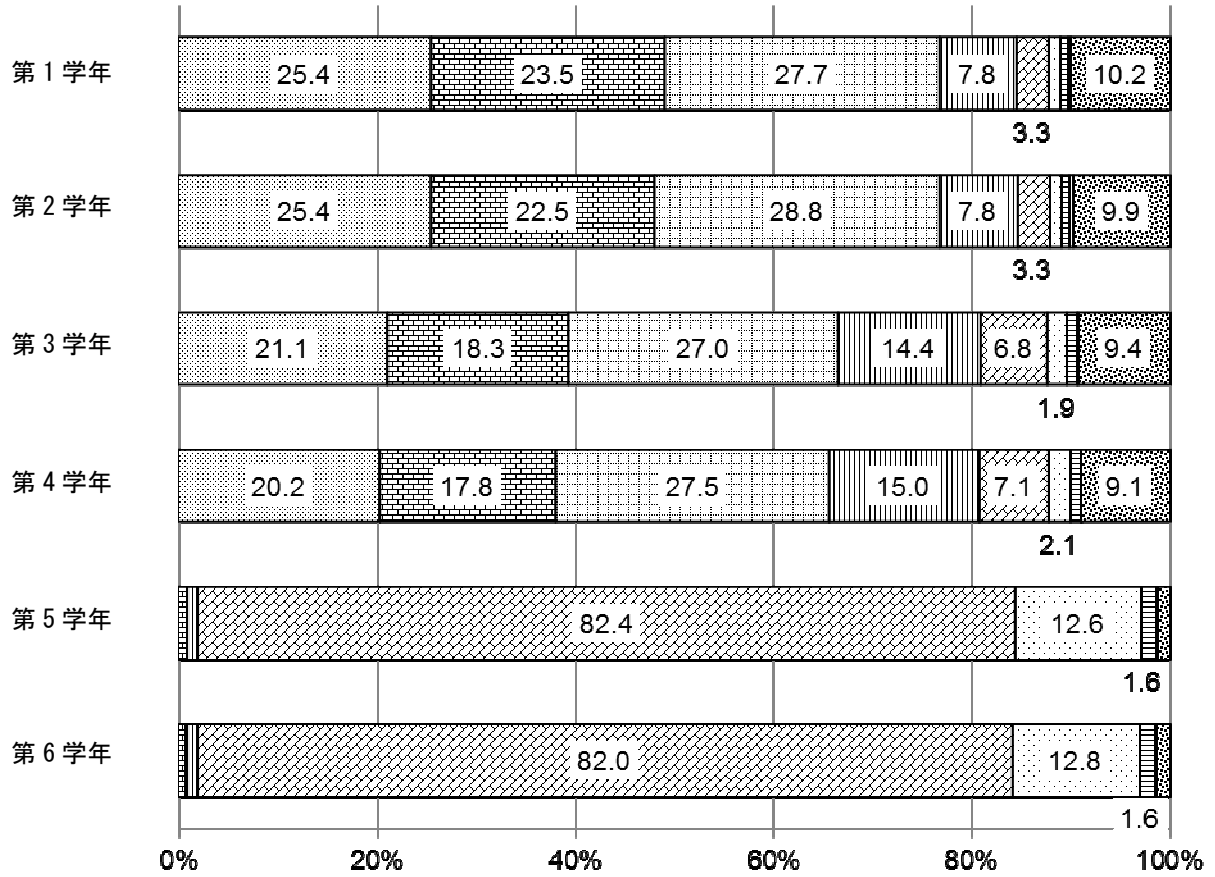
実施時間数をみると、23時間以上とした回答の割合はすべての学年において前年度を上回った。1～4学年については、実施時間の最大値は「① 4～11時間」で前年度と同じだったが、どの学年も「① 0時間」が減少して「② 1～3時間」が増えている結果となった。

高学年では、5学年、6学年とも最大値の「⑤ 23～35時間」が3ポイント前後下がって82%台になったが、いずれの学年とも「⑥ 36～70時間」が約5ポイント、「⑦ 71時間以上」が1ポイント強高くなったので、前年度に比べて時間数が全体として増加したことがわかる。なお、23時間以上と回答した学校は、5学年で3.3ポイントアップの96.6%、6学年で3.1ポイントアップの96.4%だった。

		① 0時間	② 1～3 時間	③ 4～11 時間	④ 12～22 時間	⑤ 23～35 時間	⑥ 36～70 時間	⑦ 71時 間以上	⑧ わか らな い	⑨ 無回 答
第1学年	回答数	333	308	362	102	43	14	11	3	133
	N=1,309	25.4%	23.5%	27.7%	7.8%	3.3%	1.1%	0.8%	0.2%	10.2%
第2学年	回答数	333	294	377	102	43	15	11	4	130
	N=1,309	25.4%	22.5%	28.8%	7.8%	3.3%	1.1%	0.8%	0.3%	9.9%
第3学年	回答数	276	239	354	188	89	25	13	2	123
	N=1,309	21.1%	18.3%	27.0%	14.4%	6.8%	1.9%	1.0%	0.2%	9.4%
第4学年	回答数	265	233	360	197	93	28	13	1	119
	N=1,309	20.2%	17.8%	27.5%	15.0%	7.1%	2.1%	1.0%	0.1%	9.1%
第5学年	回答数	0	11	0	14	1,078	165	21	1	18
	N=1,308	0.0%	0.8%	0.0%	1.1%	82.4%	12.6%	1.6%	0.1%	1.4%
第6学年	回答数	0	10	1	14	1,074	168	21	1	20
	N=1,309	0.0%	0.8%	0.1%	1.1%	82.0%	12.8%	1.6%	0.1%	1.5%

問1. 今年度の外国語活動及び英語活動の年間実施時間数について、学年ごとに1つずつ選んでください

- ① 0時間
- ② 1～3時間
- ③ 4～11時間
- ④ 12～22時間
- ⑤ 23～35時間
- ⑥ 36～70時間
- ⑦ 71時間以上
- ⑧ わからない
- ⑨ 無回答



問 2. 4 年生以下の英語活動に関して伺います。

問 2-1. 2011 年度から 5・6 年生に対して外国語活動の必修化が施行されましたが、貴校では 4 年生以下でも、なんらかの活動を実施していますか。

実施の有無について、[3・4 年生] [1・2 年生] ごとに 1 つずつ選んでください。

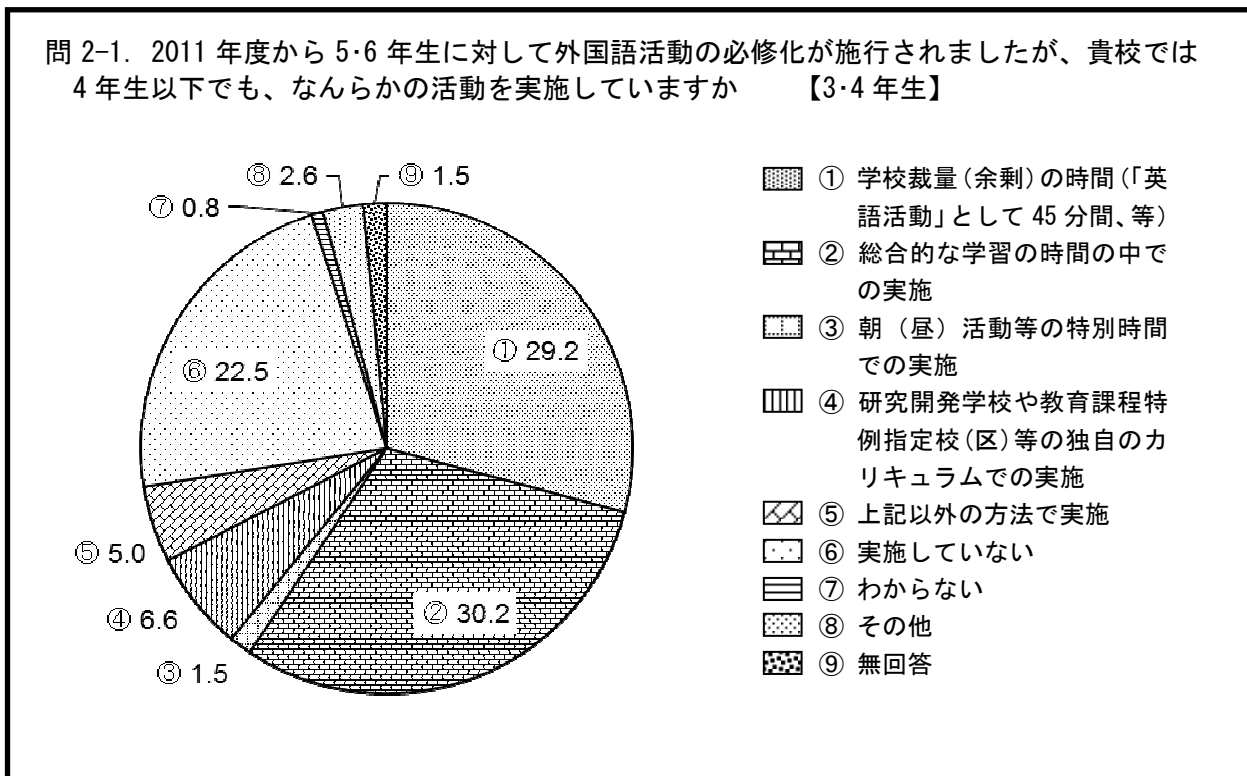
英語活動を「⑥ 実施していない」と答えた割合は、3・4 学年で 22.5%（前年度 26.9%）、1・2 学年で 28.6%（同 30.4%）であり、実施している学校が増えたことを示している。実施している回答の合計は、3・4 学年では 72.5%と 7 割を超え、1・2 学年では 65.0%と 6 割を超えた。

3・4 学年における実施方法をみると、「② 総合的な学習の時間の中での実施」が 30.2%と最も多く、「① 学校裁量（余剰）の時間」の 29.2%と続いた。この 2 つの回答で 6 割近くを占め、順位は前年度と変わらないが、「② 総合的な学習の時間の中での実施」が約 2 ポイント下がったのに対して、「① 学校裁量（余剰）の時間」は約 7 ポイント上がっており、この両者が肩を並べるレベルになっている。

1・2 学年における実施方法をみると、最も多い「① 学校裁量（余剰）の時間」が 44.8%と前年度よりも約 12 ポイント高くなったのに対して、昨年 2 位だった「② 朝（昼）活動等の特別時間での実施」が約 17 ポイントもダウンして「③ 研究開発学校や教育課程特例指定校（区）等の独自のカリキュラムでの実施」（5.1%）より少ない 3.5%となった。

[3・4 年生]

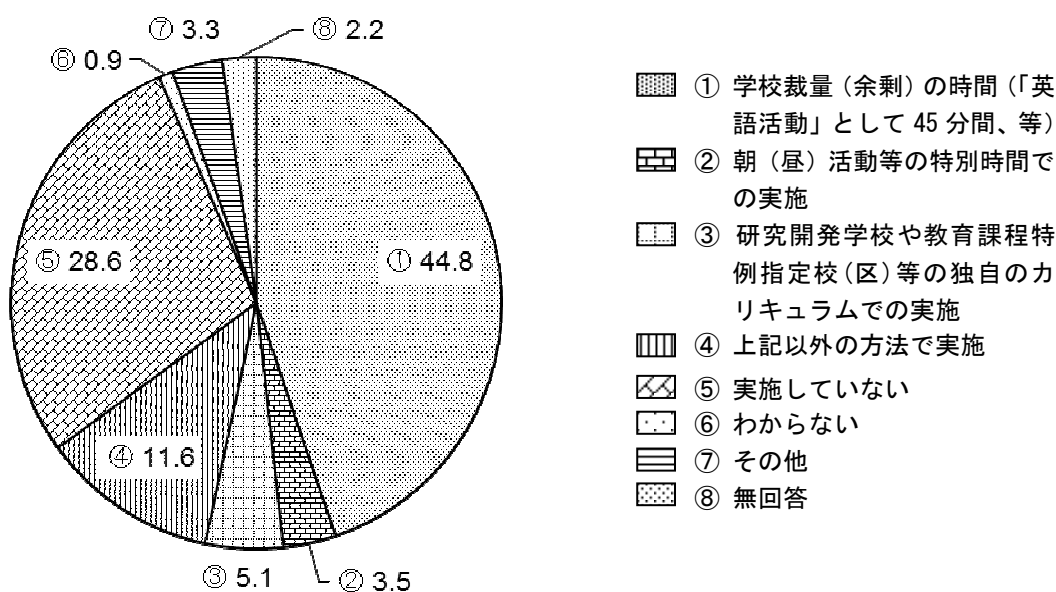
選択肢	回答数	N=1,291
① 学校裁量（余剰）の時間（「英語活動」として 45 分間、等）	377	29.2%
② 総合的な学習の時間の中での実施	390	30.2%
③ 朝（昼）活動等の特別時間での実施	19	1.5%
④ 研究開発学校や教育課程特例指定校（区）等の独自のカリキュラムでの実施	85	6.6%
⑤ 上記以外の方法で実施	65	5.0%
⑥ 実施していない	291	22.5%
⑦ わからない	10	0.8%
⑧ その他	34	2.6%
⑨ 無回答	20	1.5%



[1・2年生]

選択肢	回答数	N=1,301
① 学校裁量（余剰）の時間（「英語活動」として45分間、等）	583	44.8%
② 朝（昼）活動等の特別時間での実施	45	3.5%
③ 研究開発学校や教育課程特例指定校（区）等の独自のカリキュラムでの実施	66	5.1%
④ 上記以外の方法で実施	151	11.6%
⑤ 実施していない	372	28.6%
⑥ わからない	12	0.9%
⑦ その他	43	3.3%
⑧ 無回答	29	2.2%

問 2-1. 2011 年度から 5・6 年生に対して外国語活動の必修化が施行されましたが、貴校では 4 年生以下でも、なんらかの活動を実施していますか 【1・2 年生】



問 2-2. 貴校では、4 年生以下での英語活動についてどのように考えていますか。

[3・4 年生] [1・2 年生] ごとに1つずつ選んでください。

英語活動を必要だとする回答（「① 5・6 年生同様に必要」＋「② 時間数は少なくとも必要」＋「③ どちらかといえば必要」）は、3・4 学年では約 73%、1・2 学年では約 69%と大半を占め、必要ないとする回答（「⑥ 必要はない」＋「⑤ どちらかといえば必要ない」）を大きく上回った。

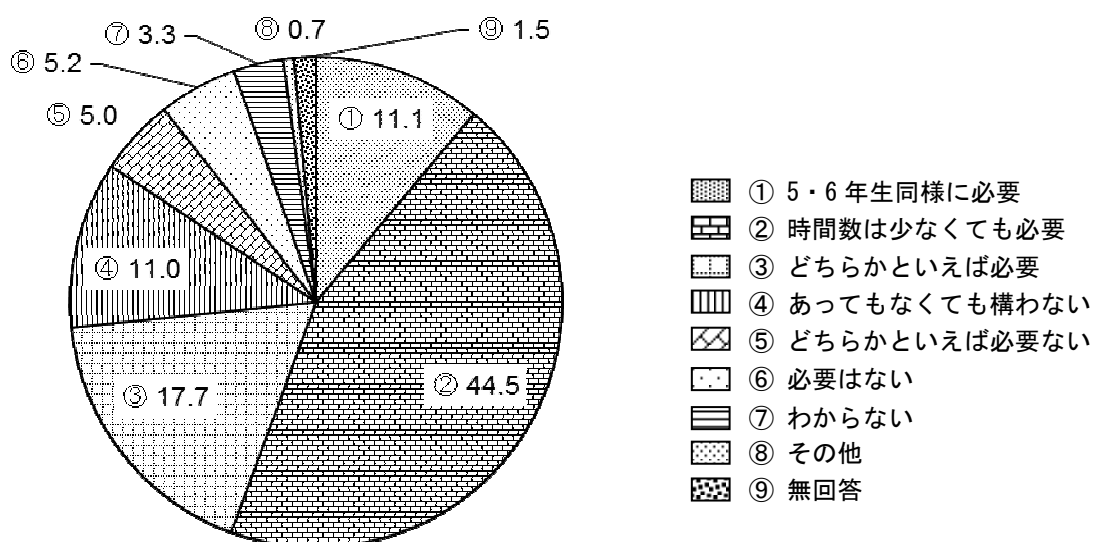
3・4 学年では、「② 時間数は少なくとも必要」が 44.5%と最も多く、「③ どちらかといえば必要」が 17.7%で続き、「① 5・6 年生同様に必要」と「④ あってもなくても構わない」が同程度の割合となった。

1・2 学年では、同様に「② 時間数は少なくとも必要」が 42.2%と最も多く、次いで「③ どちらかといえば必要」の 18.2%となったが、「④ あってもなくても構わない」が 13.0%、「① 5・6 年生同様に必要」が 8.5%と、必要性を示す回答が 3・4 学年と比べて低い結果となった。

[3・4年生]

選択肢	回答数	N=1,309
① 5・6年生同様に必要	145	11.1%
② 時間数は少なくとも必要	583	44.5%
③ どちらかといえば必要	232	17.7%
④ あってもなくても構わない	144	11.0%
⑤ どちらかといえば必要ない	66	5.0%
⑥ 必要はない	68	5.2%
⑦ わからない	43	3.3%
⑧ その他	9	0.7%
⑨ 無回答	19	1.5%

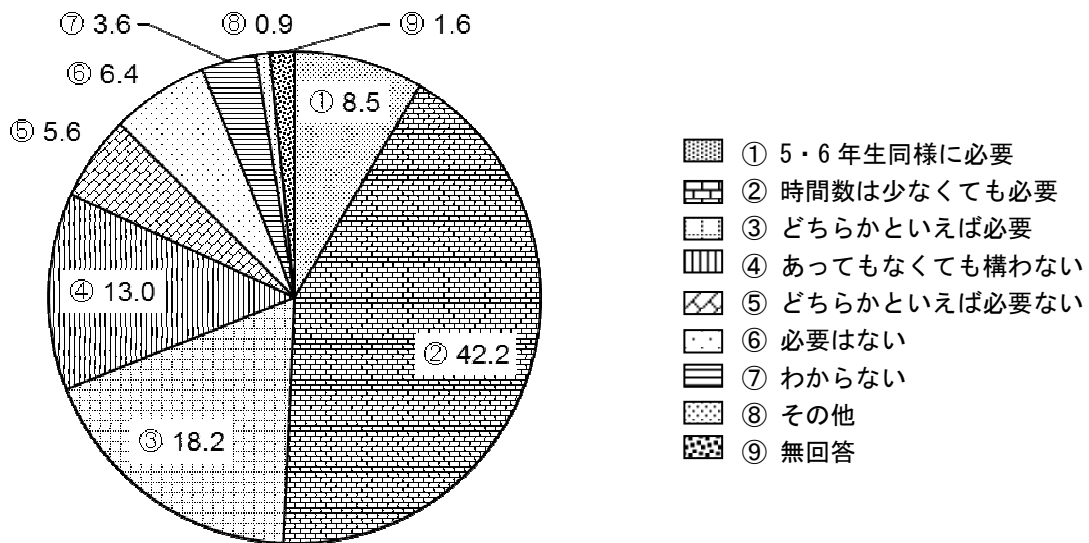
問 2-2. 貴校では、4年生以下の英語活動についてどのように考えていますか 【3・4年生】



[1・2年生]

選択肢	回答数	N=1,309
① 5・6年生同様に必要	111	8.5%
② 時間数は少なくとも必要	553	42.2%
③ どちらかといえば必要	238	18.2%
④ あってもなくても構わない	170	13.0%
⑤ どちらかといえば必要ない	73	5.6%
⑥ 必要はない	84	6.4%
⑦ わからない	47	3.6%
⑧ その他	12	0.9%
⑨ 無回答	21	1.6%

問 2-2. 貴校では、4年生以下での英語活動についてどのように考えていますか 【1・2年生】



問 2-3. 《問 2-2 で [3・4 年生] または [1・2 年生] の選択肢で 1～3 と回答した方に伺います》
英語活動を円滑に実施するには、どのような環境条件の整備が必要だと思いますか。
[3・4 年生][1・2 年生] ごとに該当するものを 3 つまで選んでください。

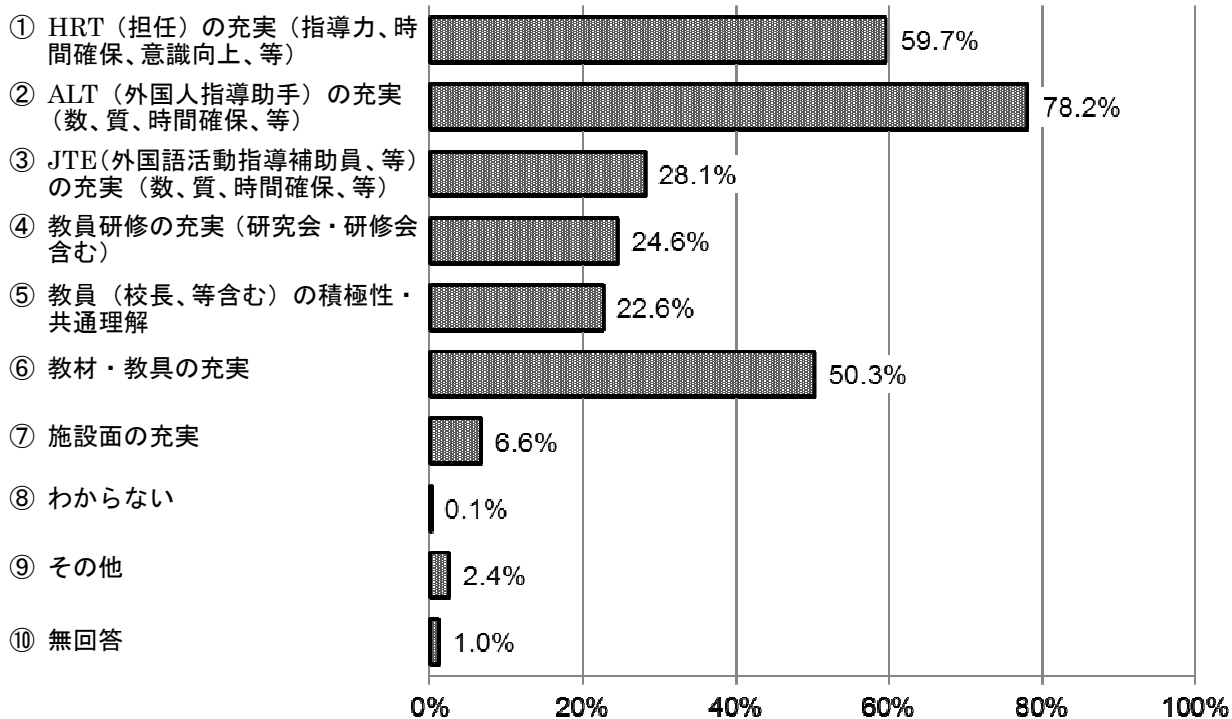
英語活動を必要だとする回答（問 2-2 の「① 5・6 年生同様に必要」＋「② 時間数は少なくとも必要」＋「③ どちらかといえば必要」）に対してそのための環境条件を聞いたところ、3・4 学年、1・2 学年ともほぼ同じ傾向を示した。最も強く求められているのが「② ALT（外国人指導助手）の充実」で、3・4 学年の 78.2%、1・2 学年の 77.6% が挙げた。続いて「① HRT（担任）の充実」「⑥ 教材・教具の充実」の順に多く、いずれも半数を超えている。

さらに、いずれの学年群も「③ JTE（外国語活動指導補助員、等）の充実」「④ 教員研修の充実」「⑤ 教員（校長、等含む）の積極性・共通理解」の順となっており、20% 台で推移している。

[3・4 年生]

選択肢	回答数	N=960
① HRT（担任）の充実（指導力、時間確保、意識向上、等）	573	59.7%
② ALT（外国人指導助手）の充実（数、質、時間確保、等）	751	78.2%
③ JTE（外国語活動指導補助員、等）の充実（数、質、時間確保、等）	270	28.1%
④ 教員研修の充実（研究会・研修会含む）	236	24.6%
⑤ 教員（校長、等含む）の積極性・共通理解	217	22.6%
⑥ 教材・教具の充実	483	50.3%
⑦ 施設面の充実	63	6.6%
⑧ わからない	1	0.1%
⑨ その他	23	2.4%
⑩ 無回答	10	1.0%

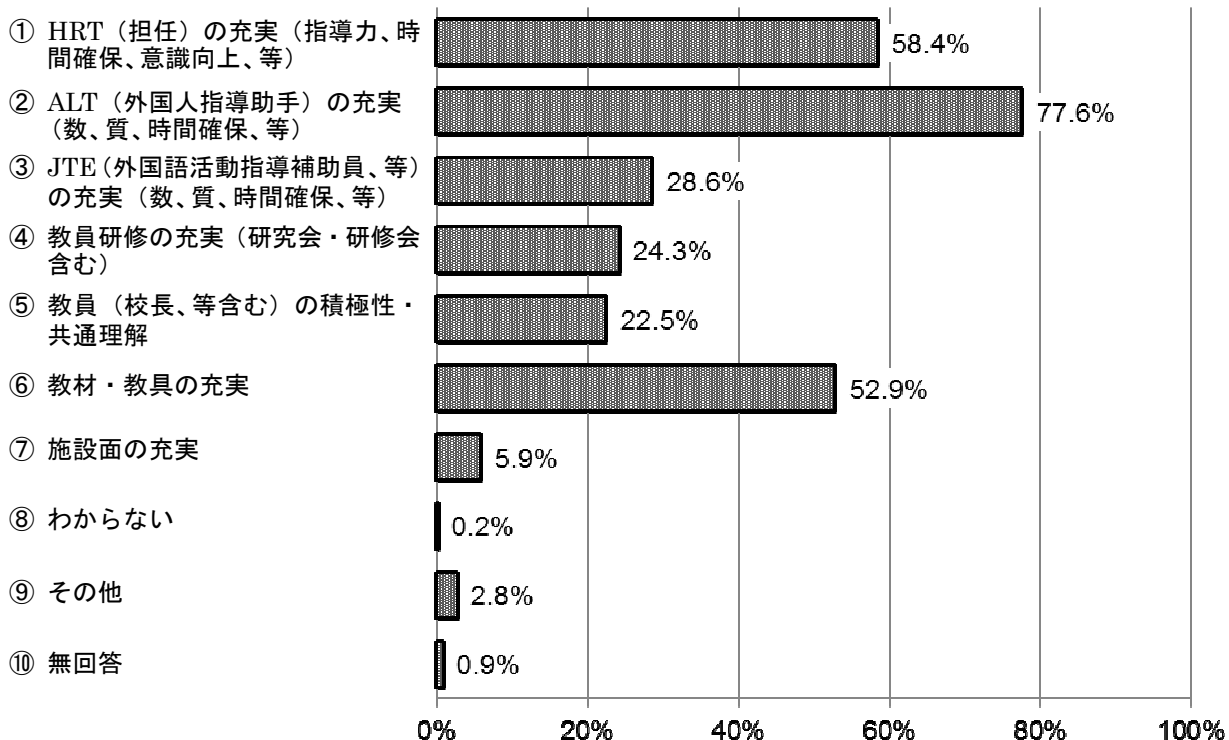
問 2-3. 《問 2-2 で [3・4 年生] または [1・2 年生] の選択肢で 1～3 と回答した方に伺います》
英語活動を円滑に実施するには、どのような環境条件の整備が必要だと思いますか 【3・4 年生】



[1・2年生]

選択肢	回答数	N=902
① HRT（担任）の充実（指導力、時間確保、意識向上、等）	527	58.4%
② ALT（外国人指導助手）の充実（数、質、時間確保、等）	700	77.6%
③ JTE（外国語活動指導補助員、等）の充実（数、質、時間確保、等）	258	28.6%
④ 教員研修の充実（研究会・研修会含む）	219	24.3%
⑤ 教員（校長、等含む）の積極性・共通理解	203	22.5%
⑥ 教材・教具の充実	477	52.9%
⑦ 施設面の充実	53	5.9%
⑧ わからない	2	0.2%
⑨ その他	25	2.8%
⑩ 無回答	8	0.9%

問2-3. 《問2-2で[3・4年生]または[1・2年生]の選択肢で1~3と回答した方に伺います》
英語活動を円滑に実施するには、どのような環境条件の整備が必要だと思いますか 【1・2年生】



問2-4. 問2-2で回答した選択肢について、特に理由があれば学年群ごとに具体的にご記入ください。

英語活動の必要性について、3・4学年で「問2-2-① 5・6年生同様に必要」と回答した学校にはすでに6年間の指導をしている学校もあり、「1年生から必要」という意見が強かった。また、「問2-2-② 時間数は少なくても必要」と回答した学校は、3・4学年段階は5学年からの英語学習の準備教育としてとらえているケースが多い。1・2学年段階での英語活動が必要とする意見では、「小さいうちの方が、効果がある」「コミュニケーション能力につながる」など早期教育を肯定する傾向が見られる。

英語活動が3・4学年で「問2-2-③ どちらかといえば必要」と答えた学校では準備教育や国際理解教育、コミュニケーション能力育成の面からの意見のほか、「多忙すぎる」など消極的な意見も交じった。1・2学年段階で「問2-2-③ どちらかといえば必要」とする学校もほぼ同じ傾向である。

「問2-2-④ あってもなくても構わない」とした学校の意見は、「時数が取れない」「教材と時間が合わない」などの意見が強く、1・2学年では「日本語教育が第一」などの意見もあった。

「問2-2-⑤ どちらかといえば必要ない」「問2-2-⑥ 必要はない」と答えた学校では、3・4学年、1・2学年のどの時期でも「効果はない」「国語を最優先すべき」「他の教科の指導で精いっぱい」などの理由が見られた。

問3. 「外国語活動及び英語活動の担当者」と「使用している教材」について、下記の各項目に該当する各学年群（a. 5・6年生、b. 3・4年生、c. 1・2年生）をすべて選んでください。貴校に該当しない学年群については空欄としてください。また、「その他」を選んだ場合には、記述した内容に該当する学年群（a、b、cの表記のみで結構です）もご記入ください。

外国語活動及び英語活動の担当者としては、どの学年とも「① HRT（担任）が担当」、「④ ALT（外国語指導助手）が担当」が多く、5・6学年では① HRT、④ ALTの順に割合が高く、3・4学年と1・2学年では、やや① HRTが多いもののほぼ同じ程度の割合となっている。3・4学年と1・2学年では、① HRT、④ ALTが5割前後であるのに対して、5・6学年では① HRT、④ ALTがそれぞれ81.9%、71.2%と高くなっており、チームティーチングを行っていることがうかがえる。

使用している教材としては、5・6学年では外国語活動教材「① Hi, friends!を使用」という回答が圧倒的に多く、90.8%に達している。「Hi, friends!」が中心的な教材になっていることがわかるが、「⑥ 電子黒板及びPC用の『Hi, friends!』付属ソフトを使用」が55.8%と高い割合を示しており、3分の2近い学校がソフトを活用していることも注目される。

前年度は教材の中心だった「英語ノート」は、文部科学省からの教材提供もなくなり、5・6学年で「② 『英語ノート』を使用」は8.6%、「⑦ 電子黒板及びPC用の『英語ノート』付属ソフトを使用」は5.0%と激減している。

比較的高い割合を占めているのが「③ 教員またはJTEやALT作成の自作教材を使用」で、5・6学年で40.8%と「Hi, friends!」関連教材に続いて多く、「⑧ 電子黒板及びPC用の自作教材を使用」も7.3%となっている。

そのほか、5・6学年では、「⑤ 市販の教材を使用」が14.1%、「④ 教育委員会作成の教材を使用」が8.5%で、一定の割合を占めている。

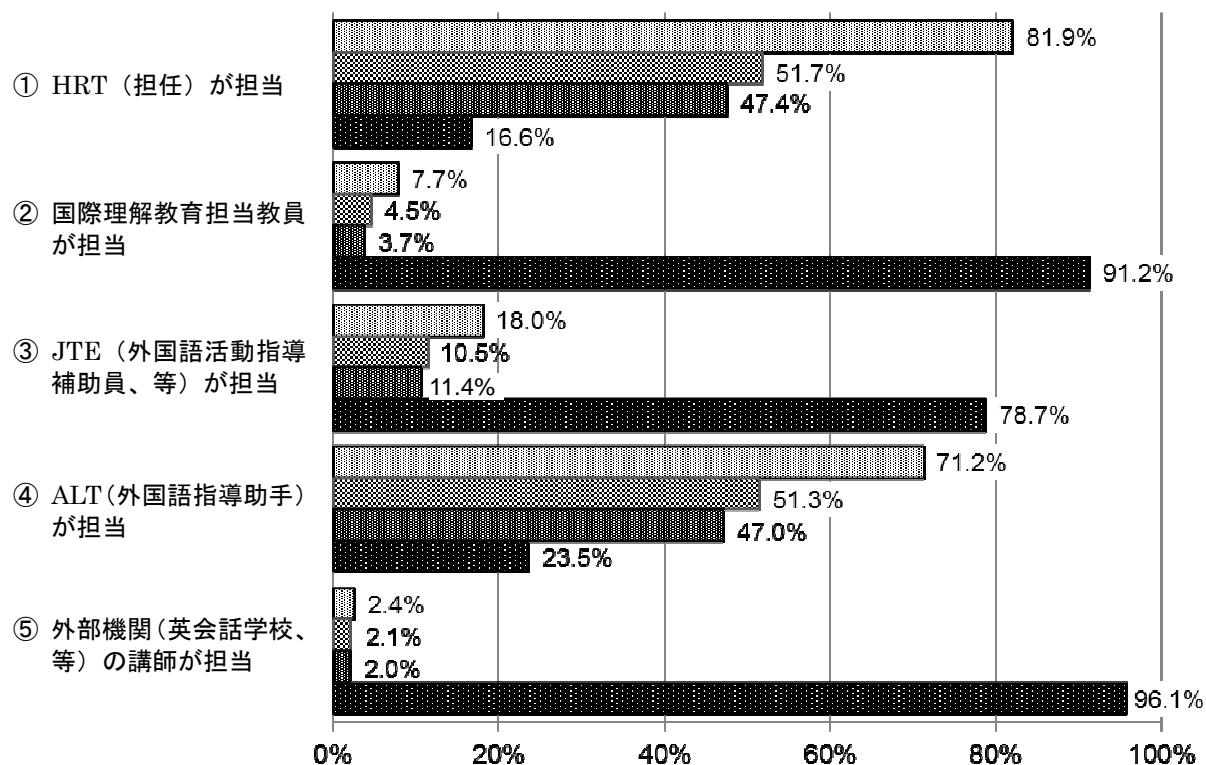
3・4学年、1・2学年では、「③ 教員またはJTEやALT作成の自作教材を使用」が50%台と最も割合が高く、続いて「⑤ 市販の教材を使用」が10%台となっており、標準的な教材がない状態を反映している。

◎ 「外国語活動及び英語活動の担当者」について

		a. 5・6年生	b. 3・4年生	c. 1・2年生	非該当
① HRT（担任）が担当	回答数	1,072	677	621	217
	N=1,309	81.9%	51.7%	47.4%	16.6%
② 国際理解教育担当教員が担当	回答数	101	59	48	1,194
	N=1,309	7.7%	4.5%	3.7%	91.2%
③ JTE（外国語活動指導補助員、等）が担当	回答数	236	149	138	1,030
	N=1,309	18.0%	11.4%	10.5%	78.7%
④ ALT（外国語指導助手）が担当	回答数	932	672	615	308
	N=1,309	71.2%	51.3%	47.0%	23.5%
⑤ 外部機関（英会話学校、等）の講師が担当	回答数	32	27	26	1,258
	N=1,309	2.4%	2.1%	2.0%	96.1%

問3. 「外国語活動及び英語活動の担当者」と「使用している教材」について、下記の各項目に該当する各学年群（a. 5・6年生、b. 3・4年生、c. 1・2年生）をすべて選んでください
【外国語活動及び英語活動の担当者について】

a. 5・6年生
 b. 3・4年生
 c. 1・2年
 非該当（担当していない）

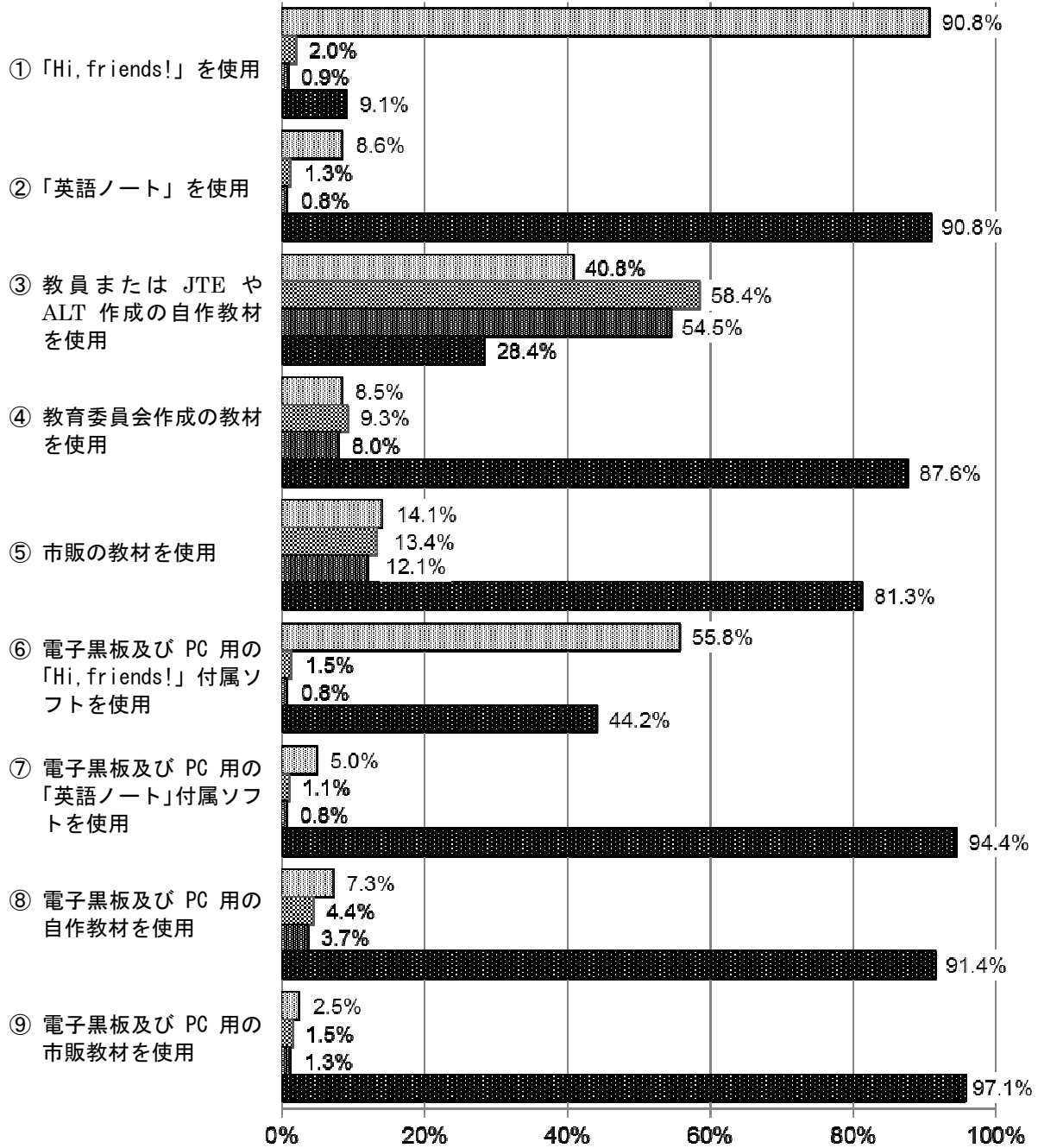


◎ 「使用している教材」について

		a. 5・6年生	b. 3・4年生	c. 1・2年生	非該当
① 「Hi, friends!」を使用	回答数	1,188	26	12	119
	N=1,309	90.8%	2.0%	0.9%	9.1%
② 「英語ノート」を使用	回答数	112	17	11	1,189
	N=1,309	8.6%	1.3%	0.8%	90.8%
③ 教員またはJTEやALT作成の自作教材を使用	回答数	534	765	713	372
	N=1,309	40.8%	58.4%	54.5%	28.4%
④ 教育委員会作成の教材を使用	回答数	111	122	105	1,147
	N=1,309	8.5%	9.3%	8.0%	87.6%
⑤ 市販の教材を使用	回答数	184	175	158	1,064
	N=1,309	14.1%	13.4%	12.1%	81.3%
⑥ 電子黒板及びPC用の「Hi, friends!」 付属ソフトを使用	回答数	730	19	11	578
	N=1,309	55.8%	1.5%	0.8%	44.2%
⑦ 電子黒板及びPC用の「英語ノート」 付属ソフトを使用	回答数	65	14	10	1,236
	N=1,309	5.0%	1.1%	0.8%	94.4%
⑧ 電子黒板及びPC用の自作教材を使用	回答数	95	58	48	1,197
	N=1,309	7.3%	4.4%	3.7%	91.4%
⑨ 電子黒板及びPC用の市販教材を使用	回答数	33	20	17	1,271
	N=1,309	2.5%	1.5%	1.3%	97.1%

問3. 「外国語活動及び英語活動の担当者」と「使用している教材」について、下記の各項目に該当する各学年群（a. 5・6年生、b. 3・4年生、c. 1・2年生）をすべて選んでください。
【使用している教材について】

a. 5・6年生
 b. 3・4年生
 c. 1・2年生
 非該当（使用していない）

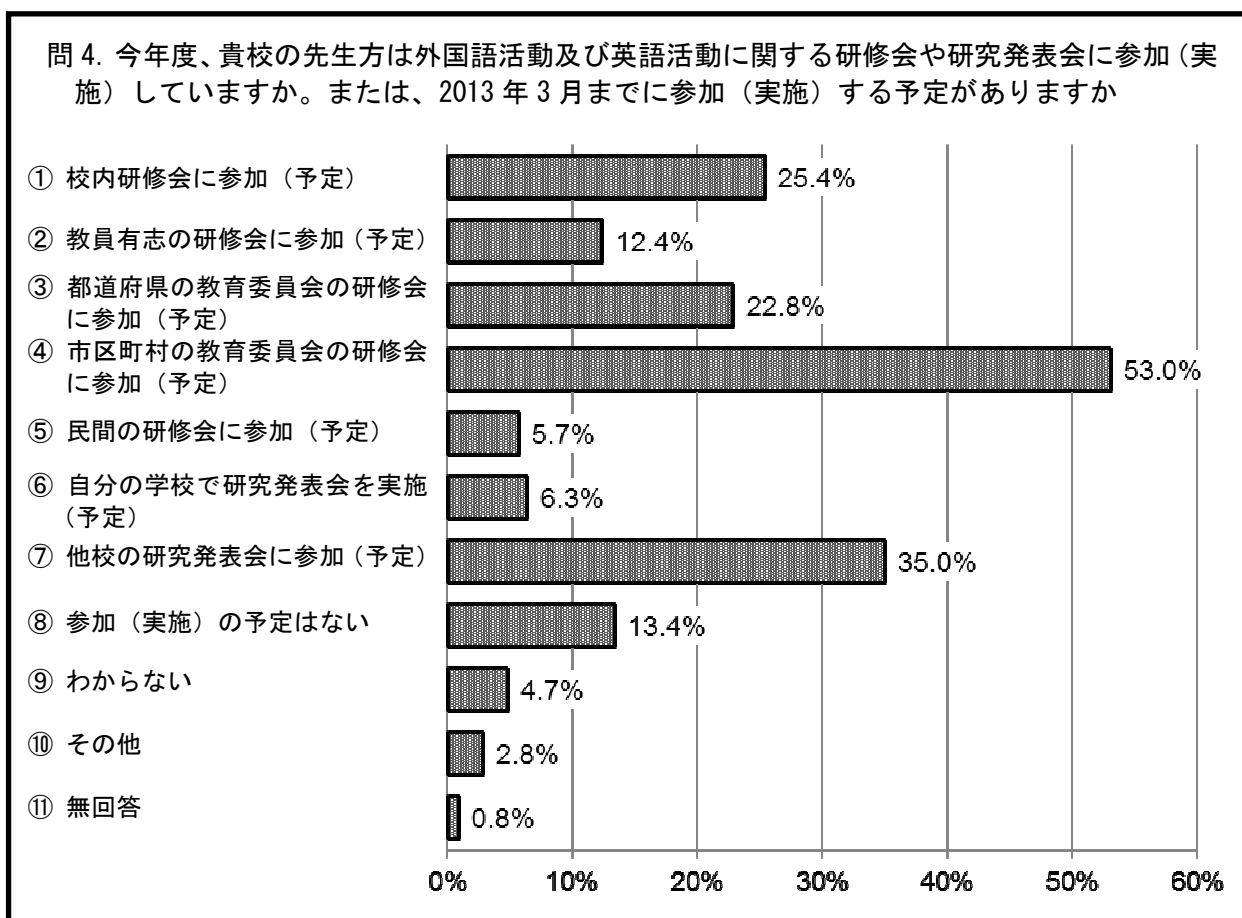


問 4. 今年度、貴校の先生方は外国語活動及び英語活動に関する研修会や研究発表会に参加（実施）していますか。または、2013年3月までに参加（実施）する予定がありますか。該当するものをすべて選んでください。

教員の研修会や研究発表会への参加状況を見ると、「④ 市区町村の教育委員会の研修会に参加（予定）」がもっとも多い53.0%だったが、前年度に比べて10ポイント以上割合が低くなった。続いて「⑦ 他校の研究発表会に参加（予定）」（35.0%）、「① 校内研修会に参加（予定）」（25.4%）、「③ 都道府県の教育委員会の研修会に参加（予定）」（22.8%）の順となっている。このなかでは、校内研修参加が前々年度の67.8%から前年度の42.8%、さらに今回の25.4%と減少を続けているのが目立った。

一方、「⑧ 参加（実施）の予定はない」が13.4%あり、1割以上の学校で研修への取り組みがないということになる。全体として研修参加の機会は減少傾向にあるようだ。

選択肢	回答数	N=1,309
① 校内研修会に参加（予定）	332	25.4%
② 教員有志の研修会に参加（予定）	162	12.4%
③ 都道府県の教育委員会の研修会に参加（予定）	299	22.8%
④ 市区町村の教育委員会の研修会に参加（予定）	694	53.0%
⑤ 民間の研修会に参加（予定）	74	5.7%
⑥ 自分の学校で研究発表会を実施（予定）	83	6.3%
⑦ 他校の研究発表会に参加（予定）	458	35.0%
⑧ 参加（実施）の予定はない	175	13.4%
⑨ わからない	62	4.7%
⑩ その他	37	2.8%
⑪ 無回答	11	0.8%

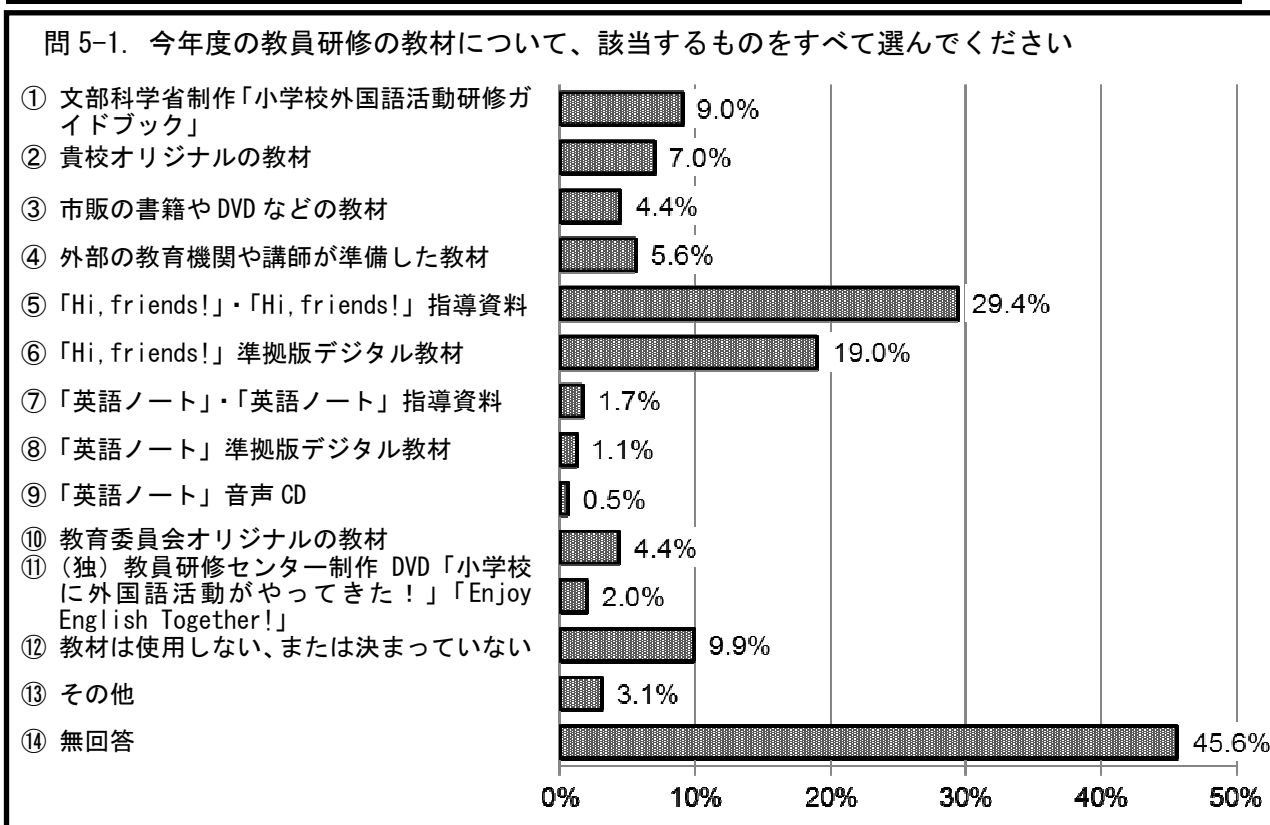


問5. 貴校において、今年度に教員研修を実施する、または予定がある場合について伺います。
問5-1. 今年度の教員研修の教材について、該当するものをすべて選んでください。

教員研修において使用する教材について、回答の多い順に並べると、(1)「⑤『Hi, friends!』・『Hi, friends!』指導資料」(29.4%)、(2)「⑥『Hi, friends!』準拠版デジタル教材」(19.0%)、(3)「①文部科学省制作『小学校外国語活動研修ガイドブック』」(9.0%)、(4)「②貴校オリジナルの教材」(7.0%)、(5)「④外部の教育機関や講師が準備した教材」(5.6%) — という結果だった。また、「⑫教材は使用しない、または決まっていない」と回答したのは9.9%だった。

前年度調査におけるトップは、「文部科学省制作『英語ノート』・『英語ノート指導資料』」だったが、今回は新教材の「Hi, friends!」が「英語ノート」と入れ替わる形になった。

選択肢	回答数	N=1,309
① 文部科学省制作「小学校外国語活動研修ガイドブック」	118	9.0%
② 貴校オリジナルの教材	91	7.0%
③ 市販の書籍やDVDなどの教材	58	4.4%
④ 外部の教育機関や講師が準備した教材	73	5.6%
⑤ 「Hi, friends!」・「Hi, friends!」指導資料	385	29.4%
⑥ 「Hi, friends!」準拠版デジタル教材	249	19.0%
⑦ 「英語ノート」・「英語ノート」指導資料	22	1.7%
⑧ 「英語ノート」準拠版デジタル教材	15	1.1%
⑨ 「英語ノート」音声CD	7	0.5%
⑩ 教育委員会オリジナルの教材	57	4.4%
⑪ (独) 教員研修センター制作 DVD「小学校に外国語活動がやってきた!」 「Enjoy English Together!」	26	2.0%
⑫ 教材は使用しない、または決まっていない	129	9.9%
⑬ その他	40	3.1%
⑭ 無回答	597	45.6%

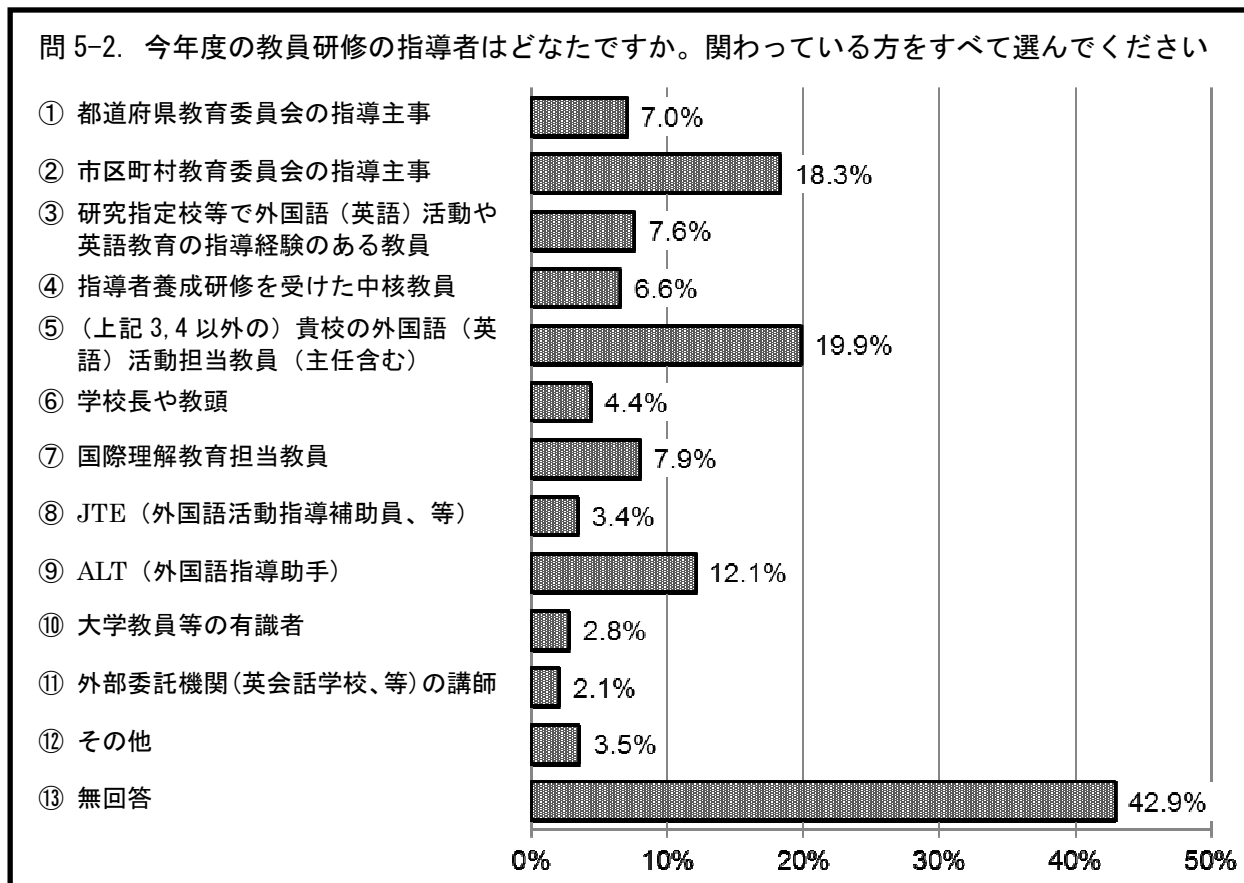


問 5-2. 今年度の教員研修の指導者はどなたですか。関わっている方をすべて選んでください。

教員研修の指導者は、「⑤ 貴校の外国語（英語）活動担当教員（主任含む）」が 19.9%と最も多かった。次に「② 市区町村教育委員会の指導主事」が 18.3%と続き、「⑨ ALT（外国語指導助手）」12.1%、「⑦ 国際理解教育担当教員」7.9%、「③ 研究指定校等で外国語（英語）活動や英語教育の指導経験のある教員」7.6%の順に多くなっている。

今回は前年度になかった選択肢を 3 つ追加し、そのなかの「⑤ 貴校の外国語（英語）活動担当教員（主任含む）」がトップになったので、前年度トップの「② 市区町村教育委員会の指導主事」が 2 位に後退した。前年度 5 位の「① 都道府県教育委員会の指導主事」（7.0%）は 6 位に、同 3 位の「④ 指導者養成研修を受けた中核教員」（6.6%）は 7 位となり、大幅にウエイトが下がっている。

選択肢	回答数	N=1,309
① 都道府県教育委員会の指導主事	92	7.0%
② 市区町村教育委員会の指導主事	240	18.3%
③ 研究指定校等で外国語（英語）活動や英語教育の指導経験のある教員	99	7.6%
④ 指導者養成研修を受けた中核教員	86	6.6%
⑤（上記 3,4 以外の）貴校の外国語（英語）活動担当教員（主任含む）	260	19.9%
⑥ 学校長や教頭	57	4.4%
⑦ 国際理解教育担当教員	104	7.9%
⑧ JTE（外国語活動指導補助員、等）	45	3.4%
⑨ ALT（外国語指導助手）	158	12.1%
⑩ 大学教員等の有識者	37	2.8%
⑪ 外部委託機関（英会話学校、等）の講師	27	2.1%
⑫ その他	46	3.5%
⑬ 無回答	562	42.9%

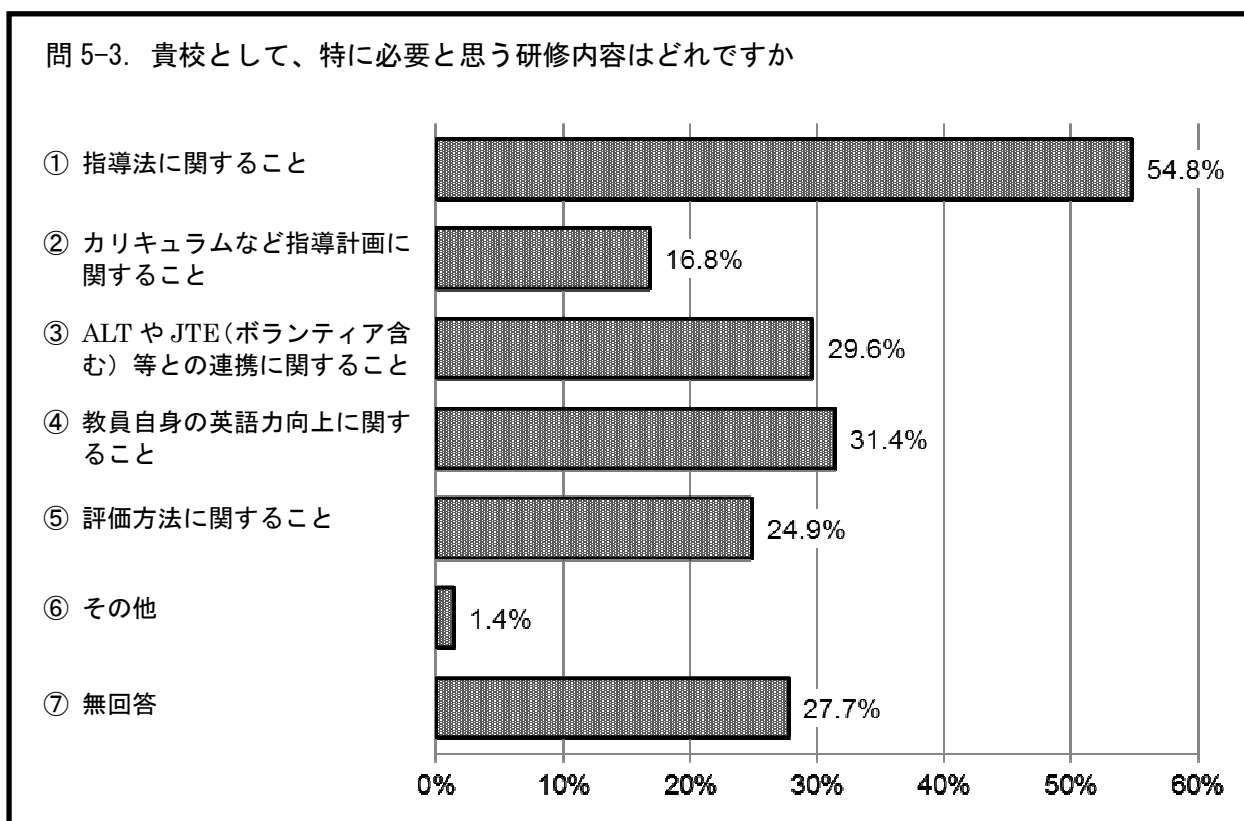


問 5-3. 貴校として、特に必要と思う研修内容はどれですか。該当するものをすべて選んでください。

必要と思われる研修内容をみると、「① 指導法に関すること」が他を引き離して最も多く、54.8%となった。続いて「④ 教員自身の英語力向上に関すること」(31.4%)、「③ ALT や JTE (ボランティア含む) 等との連携に関すること」(29.6%)、「⑤ 評価方法に関すること」(24.9%)の順に高い割合を示している。

これを前年度と比較すると、トップの「① 指導法に関すること」は変わらず、上位の顔ぶれも同じだが、前年度 2 位の「⑤ 評価方法に関すること」が 4 位に下がった。

選択肢	回答数	N=1,309
① 指導法に関すること	717	54.8%
② カリキュラムなど指導計画に関すること	220	16.8%
③ ALT や JTE (ボランティア含む) 等との連携に関すること	388	29.6%
④ 教員自身の英語力向上に関すること	411	31.4%
⑤ 評価方法に関すること	326	24.9%
⑥ その他	18	1.4%
⑦ 無回答	363	27.7%



問 6. 5・6年生の外国語活動を実施するにあたり、貴校では以下の面で環境は整っていると思いますか。下記の1～21の項目について該当する状況を、a～eの選択肢の中から1つずつ選んでください。

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| ① 外国語活動担当教員やJTEの配置 | ⑫ 外国語活動を行うための教室 |
| ② 過去に外国語活動を指導した経験のある教員 | ⑬ 校内研究会・研修会の実施体制 |
| ③ 年間指導計画を作成できる教員 | ⑭ 5・6年生と1～4年生の担当教員の情報交換 |
| ④ 校内研修を企画・運営できる教員 | ⑮ 同一中学に進学する近隣小学校との情報交換の体制 |
| ⑤ ALTの小学校訪問頻度（人件費を含む） | ⑯ 進学先中学校との情報交換の体制 |
| ⑥ 外国語活動実施に対する教員の積極性 | ⑰ 学校外での研修会・勉強会などの情報 |
| ⑦ 英語の文法・表現・発音等について相談できる人 | ⑱ 学校外での研修会・勉強会参加の仕組みやサポート体制 |
| ⑧ 外国語活動の指導法について相談できる人 | ⑲ 教師が使用する教材・教具を購入する費用 |
| ⑨ 年間指導計画・指導案 | ⑳ 教師が研修に参加する費用 |
| ⑩ 児童が外国語活動で使用する教材・教具 | ㉑ ALTやJTEなどの補助スタッフに関する費用 |
| ⑪ 教師が外国語活動で使用する教材・教具 | |

外国語活動実施に際しての環境整備状況について、以下に整っている回答の割合（「a.十分に整っている」＋「b.ある程度整っている」）の順に並べ、さらにその項目に関して、整っていない回答の割合（「d.まったく整っていない」＋「c.あまり整っていない」）を見て分析した。（ ）内は前年度データ。

① 「a.十分に整っている」「b.ある程度整っている」の合計が70%以上のもの

「⑤ ALTの小学校訪問頻度（人件費を含む）」77.1%（77.4%）

例年トップになっており、「a.十分に整っている」だけでも30.7%と飛びぬけて高い。

② 「a.十分に整っている」「b.ある程度整っている」の合計が60%以上70%未満のもの

「⑪ 教師が外国語活動で使用する教材・教具」68.5%（「教師が外国語活動で使用する教具」69.7%）

「⑩ 児童が外国語活動で使用する教材・教具」65.4%（「児童が外国語活動で使用する教材」69.9%）

「⑨ 年間指導計画・指導案」64.1%（65.3%）

教員、児童とも使用する教材・教具はある程度整備されているが、「十分に整っている」の割合は1割を切っており、高い方ではないので、さらなる充実が必要だと言えよう。

③ 「a.十分に整っている」「b.ある程度整っている」の合計が50%以上60%未満のもの

「① 外国語活動担当教員やJTEの配置」58.3%（「外国語活動担当教員の配置」58.7%）

「⑥ 外国語活動実施に対する教員の積極性」55.7%（61.0%）

「㉑ ALTやJTEなどの補助スタッフに関する費用」53.9%（「ALTなどの指導者に関する費用」59.3%）

「⑰ 学校外での研修会・勉強会などの情報」51.9%（49.3%）

教員や補助スタッフの配置や費用、情報などに関するこれらの項目では、整っているとする割合が半数を超えているものの、教員の積極性や研修会・勉強会などの情報では、整っていないとする割合が4割を超えている。「① 外国語活動担当教員やJTEの配置」は、「a.十分に整っている」が2割近くを占めて21項目中2位となっているが、「d.まったく整っていない」も1割以上と比較的高く、学校による格差が大きいと思われる。

④ 「a.十分に整っている」「b.ある程度整っている」の合計が40%以上50%未満のもの

「⑫ 外国語活動を行うための教室」49.8%（49.3%）

「③ 年間指導計画を作成できる教員」47.0%（47.6%）

「⑲ 教師が使用する教材・教具を購入する費用」46.4%（「教師が使用する教具を購入する費用」44.4%）

「② 過去に外国語活動を指導した経験のある教員」45.5%（44.7%）

「⑰ 学校外での研修会・勉強会参加の仕組みやサポート体制」44.0%（40.5%）

「⑳ 教師が研修に参加する費用」43.7%（42.8%）

これらの項目は、整っているという回答が半数を下回っており、「外国語活動を行うための教室」以外はすべて、整っていないという回答が整っているという回答よりも多くなっている。「外国語活動を行うための教室」は、「十分に整っている」が約17%である一方で「まったく整っていない」も約21%と高い割合になっており、学校間の格差が大きいようだ。

⑤ 「a.十分に整っている」「b.ある程度整っている」の合計が30%以上40%未満のもの

「⑧ 外国語活動の指導法について相談できる人」38.7% (38.2%)

「④ 校内研修を企画・運営できる教員」36.0% (43.2%)

「⑩ 進学先中学校との情報交換の体制」35.7% (33.0%)

「⑦ 英語の文法・表現・発音等について相談できる人」35.4% (34.1%)

整っているという回答が4割を切ったこれらの項目では、整っていないとする回答の割合は、「⑧外国語活動の指導法について相談できる人」が59%だった以外はすべて、6割を超えている。「④ 校内研修を企画・運営できる教員」の項目で、整っているという回答が前年度よりも7ポイントも下がったことが目立った。

⑥ 「a.十分に整っている」「b.ある程度整っている」の合計が30%未満のもの

「⑮ 同一中学に進学する近隣小学校との情報交換の体制」28.1% (29.1%)

「⑬ 校内研究会・研修会の実施体制」27.8% (37.0%)

「⑭ 5・6年生と1～4年生の担当教員の情報交換」21.4% (22.5%)

これらの項目では、整っていないという回答の割合が整っているという回答の割合の2倍を超えている。特に、「⑮ 同一中学に進学する近隣小学校との情報交換の体制」と「⑭ 5・6年生と1～4年生の担当教員の情報交換」はともに「d.まったく整っていない」が24.1%と21項目中最も高く、校内・校外とも情報交換体制ができていないことが浮き彫りになった。

以上を概観すると、前年度と比べて全体的にやや数値が改善されているものの、傾向はまったく変わっていない。外国語活動を担当する教員や補助スタッフ、教材・教具などは比較的整っているようだが、研修のためのサポート・実施体制や情報提供、企画・運営のための人材などに課題が見られる。情報交換体制（校内の教員間の連絡、小小連携、小中連携）や、小学校教員が指導法や英語のスキルについて相談する体制などでも整備に力を入れる必要があるだろう。

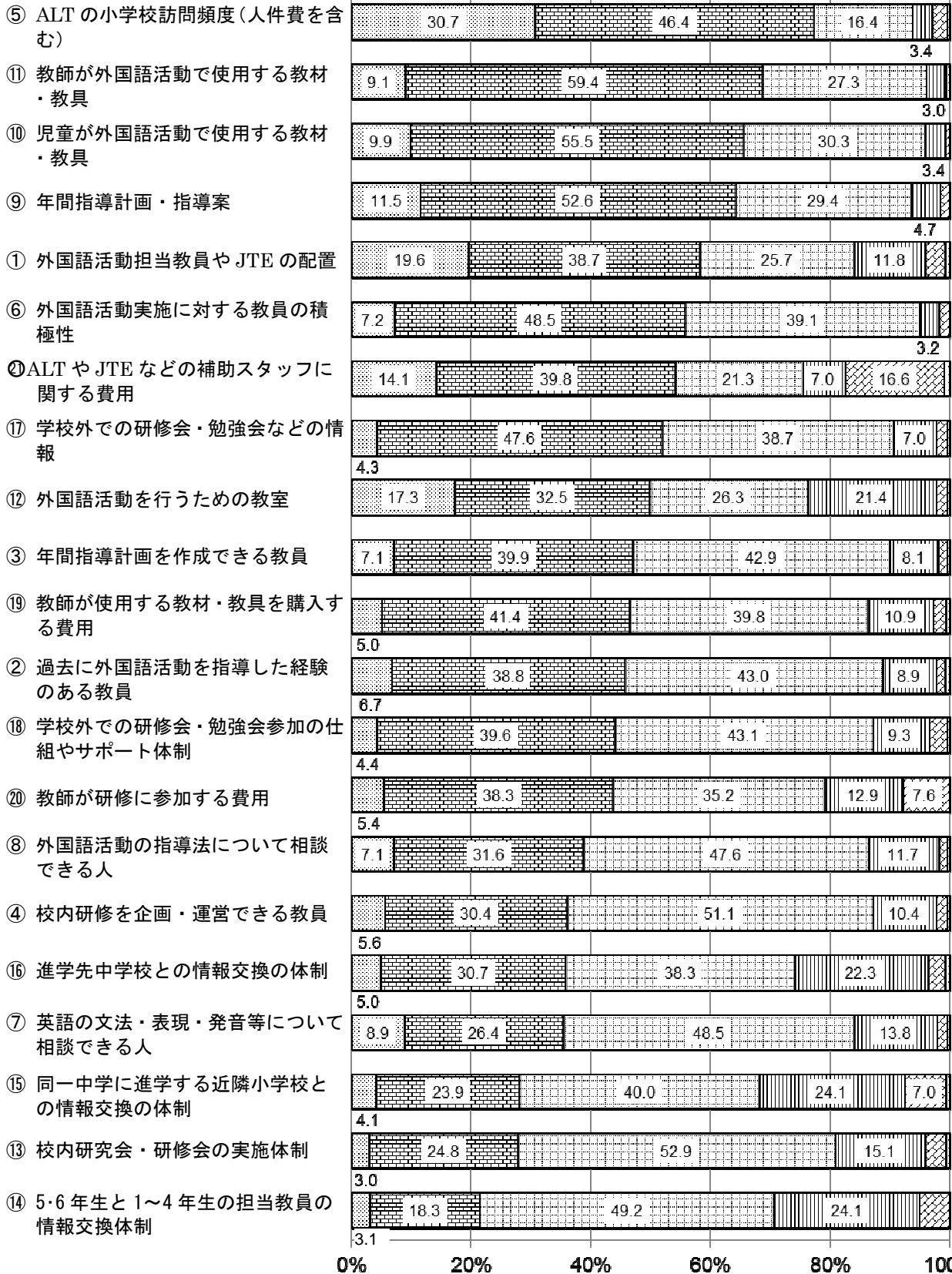
〈 降順「a.十分に整っている」＋「b.ある程度整っている」の肯定回答の多い順 〉

項 目	a.十分に整っている	b.ある程度整っている	c.あまり整っていない	d.まったく整っていない	e.どれもあてはまらない	f.無回答
⑤ ALT の小学校訪問頻度（人件費を含む）	30.7%	46.4%	16.4%	3.4%	2.4%	0.7%
⑪ 教師が外国語活動で使用する教材・教具	9.1%	59.4%	27.3%	3.0%	0.4%	0.8%
⑩ 児童が外国語活動で使用する教材・教具	9.9%	55.5%	30.3%	3.4%	0.4%	0.5%
⑨ 年間指導計画・指導案	11.5%	52.6%	29.4%	4.7%	1.2%	0.5%
① 外国語活動担当教員やJTEの配置	19.6%	38.7%	25.7%	11.8%	3.4%	0.9%
⑥ 外国語活動実施に対する教員の積極性	7.2%	48.5%	39.1%	3.2%	1.5%	0.5%
⑫⑪ ALT や JTE などの補助スタッフに関する費用	14.1%	39.8%	21.3%	7.0%	16.6%	1.1%
⑰ 学校外での研修会・勉強会などの情報	4.3%	47.6%	38.7%	7.0%	1.8%	0.6%
⑫ 外国語活動を行うための教室	17.3%	32.5%	26.3%	21.4%	1.9%	0.6%
③ 年間指導計画を作成できる教員	7.1%	39.9%	42.9%	8.1%	1.4%	0.7%
⑱ 教師が使用する教材・教具を購入する費用	5.0%	41.4%	39.8%	10.9%	2.1%	0.8%
② 過去に外国語活動を指導した経験のある教員	6.7%	38.8%	43.0%	8.9%	1.5%	1.0%
⑱ 学校外での研修会・勉強会参加の仕組みやサポート体制	4.4%	39.6%	43.1%	9.3%	3.1%	0.6%
⑳ 教師が研修に参加する費用	5.4%	38.3%	35.2%	12.9%	7.6%	0.5%
⑧ 外国語活動の指導法について相談できる人	7.1%	31.6%	47.6%	11.7%	1.4%	0.6%
④ 校内研修を企画・運営できる教員	5.6%	30.4%	51.1%	10.4%	1.8%	0.7%
⑯ 進学先中学校との情報交換の体制	5.0%	30.7%	38.3%	22.3%	2.8%	0.9%
⑦ 英語の文法・表現・発音等について相談できる人	8.9%	26.4%	48.5%	13.8%	1.8%	0.6%
⑮ 同一中学に進学する近隣小学校との情報交換の体制	4.1%	23.9%	40.0%	24.1%	7.0%	0.8%
⑬ 校内研究会・研修会の実施体制	3.0%	24.8%	52.9%	15.1%	3.4%	0.8%
⑭ 5・6年生と1～4年生の担当教員の情報交換体制	3.1%	18.3%	49.2%	24.1%	4.8%	0.5%

〈 降順グラフ 〉

問 6. 5・6年生の外国語活動を実施するにあたり、貴校では以下の面で環境は整っていると
 思いますか

- a. 十分に整っている
 b. ある程度整っている
 c. あまり整っていない
 d. まったく整っていない
 e. どれもあてはまらない
 f. 無回答



問7. 現在、外国語活動において、貴校で問題や課題であると感じていることはありますか。該当するものを5つまで選んでください。さらに、選んだものを優先順位が高い順に1位、2位、3位、4位、5位として、それぞれの選択肢番号を[]に書いてください。

外国語活動における問題や課題の総得点を高い順にみると、1位が「⑩ ALTとの連携および打合せ時間」で2,701得点、2位が「① 指導内容・方法」で2,458得点、以下「⑤ 教員（HRT、等）の指導力・技術」（2,446得点）、「③ 評価内容・方法」で1,885得点、「④ 教材・教具（『Hi, friends!』含む）」（1,466得点）、「⑪ 教員研修（質、回数、等）」（1,227得点）、「⑬ 高学年担当教員と中・低学年担当教員の活動に対する意識の差・違い」（956得点）、「⑫ 中学校との連携」（804得点）、「② 指導計画」（800得点）が続いている。

なお、前年度調査では選択肢にあった「保護者の意見（期待等）」を削除し、「指導者（担当教員）の質・技術」「指導者（担当教員）の確保・採用」の2つの選択肢を「⑤ 教員（HRT、等）の指導力・技術」「⑥ JTE（ボランティア含む）の確保・採用」「⑦ JTE（ボランティア含む）の指導力・技術」「⑧ ALTの確保・採用」「⑨ ALTの指導力・技術」「⑩ ALTとの連携および打合せ時間」の6つに細分化した。その結果、この中の「⑩ ALTとの連携および打合せ時間」がトップになり、問題・課題として大きく浮き彫りにされた。また、「⑤ 教員（HRT、等）の指導力・技術」が3位となり、これらの問題が大きいことが分かるようになった。その他の項目では、「① 指導内容・方法」、「③ 評価内容・方法」、「⑪ 教員研修（質、回数、等）」、「④教材・教具（『Hi, friends!』含む）」などが上位に入っており、これらの傾向は前年度と変わっていない。

本設問の回答数で5つ～1つ毎の選択を抽出した集計は、今調査での初めての試みであったが、どのケースでも「⑩ ALTとの連携および打合せ時間」が5つ選択された場合以外すべて1位となり、全体の分析結果と合わせて最重要視されている項目と考えられる。また、2つと1つ選択された場合のケースで「⑰ その他」が順位を上げているが、選択項目にない問題・課題内容として記述内容に注目する必要がある。

問題や課題の単純集計（ウエイトをかけない回答数のみの数値）をみると、「⑩ ALT との連携および打合せ時間」が60.1%でもっとも多く、次いで「⑤ 教員（HRT等）の指導力・技術」の54.1%、「① 指導内容・方法」の53.2%、「③ 評価内容・方法」の44.7%、「④ 教材・教具（『Hi, friends!』含む）」の35.4%、「⑪教員研修（質、回数、等）」の34.2%、「⑬ 高学年担当教員と中・低学年担当教員の活動に対する意識の差・違い」の25.8%、「⑫ 中学校との連携」の24.3%などとなった。優先度を加味した総得点の順位と比べると、「⑤ 教員（HRT等）の指導力・技術」と「① 指導内容・方法」の順位が入れ替わったことから、「① 指導内容・方法」を上位に挙げた回答が多かったことがわかる。

〈 降順 〉

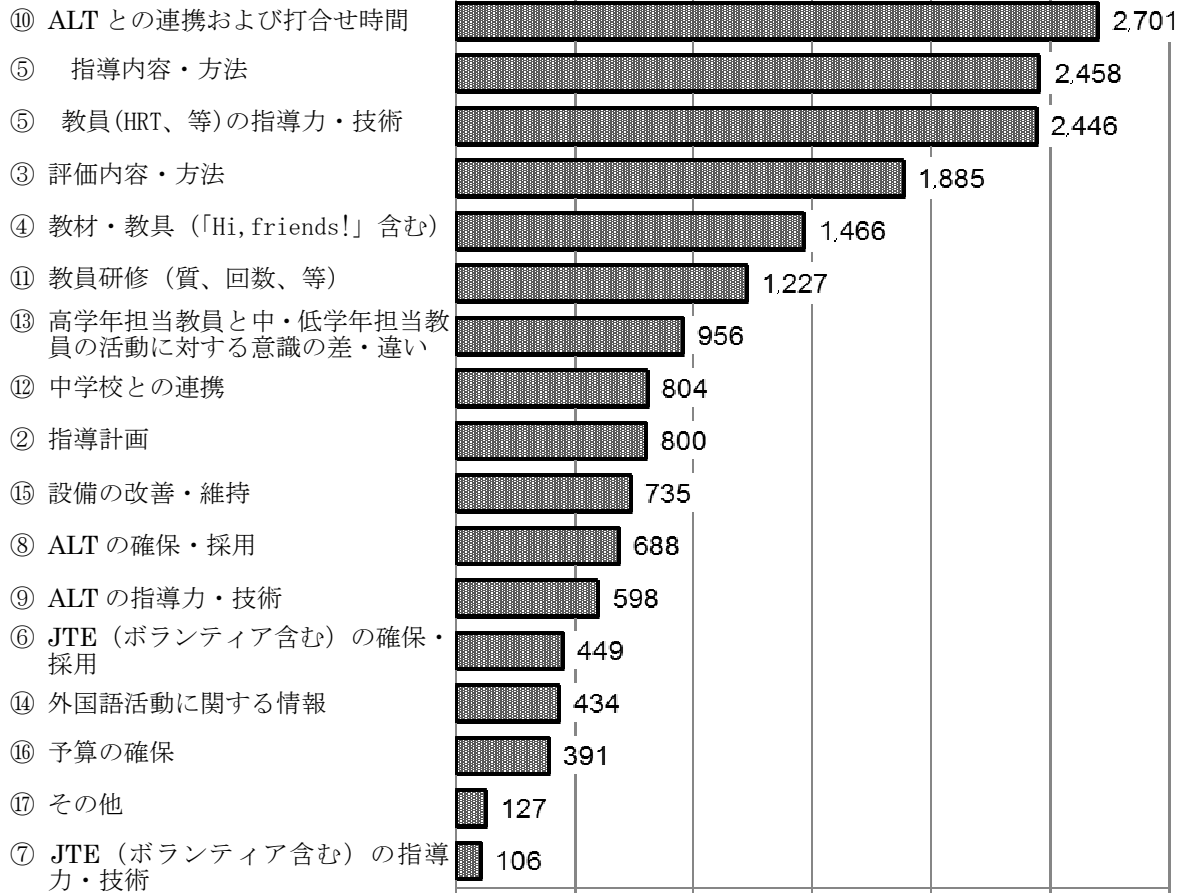
優先度の高い順に得点換算して集計（〈1〉=5 得点、〈2〉=4 得点 ～ 〈5〉=1 得点）選択肢の優先度の高い順位の得点換算順。同点の場合は1位を優先

選択肢	総得点	回答数	1位	2位	3位	4位	5位
⑩ ALT との連携および打合せ時間	2,701	787	228	188	156	126	89
① 指導内容・方法	2,458	697	222	171	132	96	76
⑤ 教員（HRT、等）の指導力・技術	2,446	708	194	198	137	94	85
③ 評価内容・方法	1,885	585	127	133	133	127	65
④ 教材・教具（『Hi, friends!』含む）	1,466	464	85	115	111	95	58
⑪ 教員研修（質、回数、等）	1,227	448	43	103	101	96	105
⑬ 高学年担当教員と中・低学年担当教員の活動に対する意識の差・違い	956	338	64	54	60	80	80
⑫ 中学校との連携	804	318	38	46	63	70	101
② 指導計画	800	268	41	51	81	53	42
⑮ 設備の改善・維持	735	241	54	41	53	49	44
⑧ ALT の確保・採用	688	205	66	39	35	32	33
⑨ ALT の指導力・技術	598	198	39	39	41	45	34
⑥ JTE（ボランティア含む）の確保・採用	449	143	33	28	28	34	20
⑭ 外国語活動に関する情報	434	201	12	24	36	41	88

⑩ 予算の確保	391	143	26	27	22	19	49
⑪ その他	127	31	20	2	4	2	3
⑦ JTE (ボランティア含む) の指導力・技術	106	38	4	8	9	10	7

〈 降順 選択肢の優先度の高い順位の得点換算順グラフ 〉

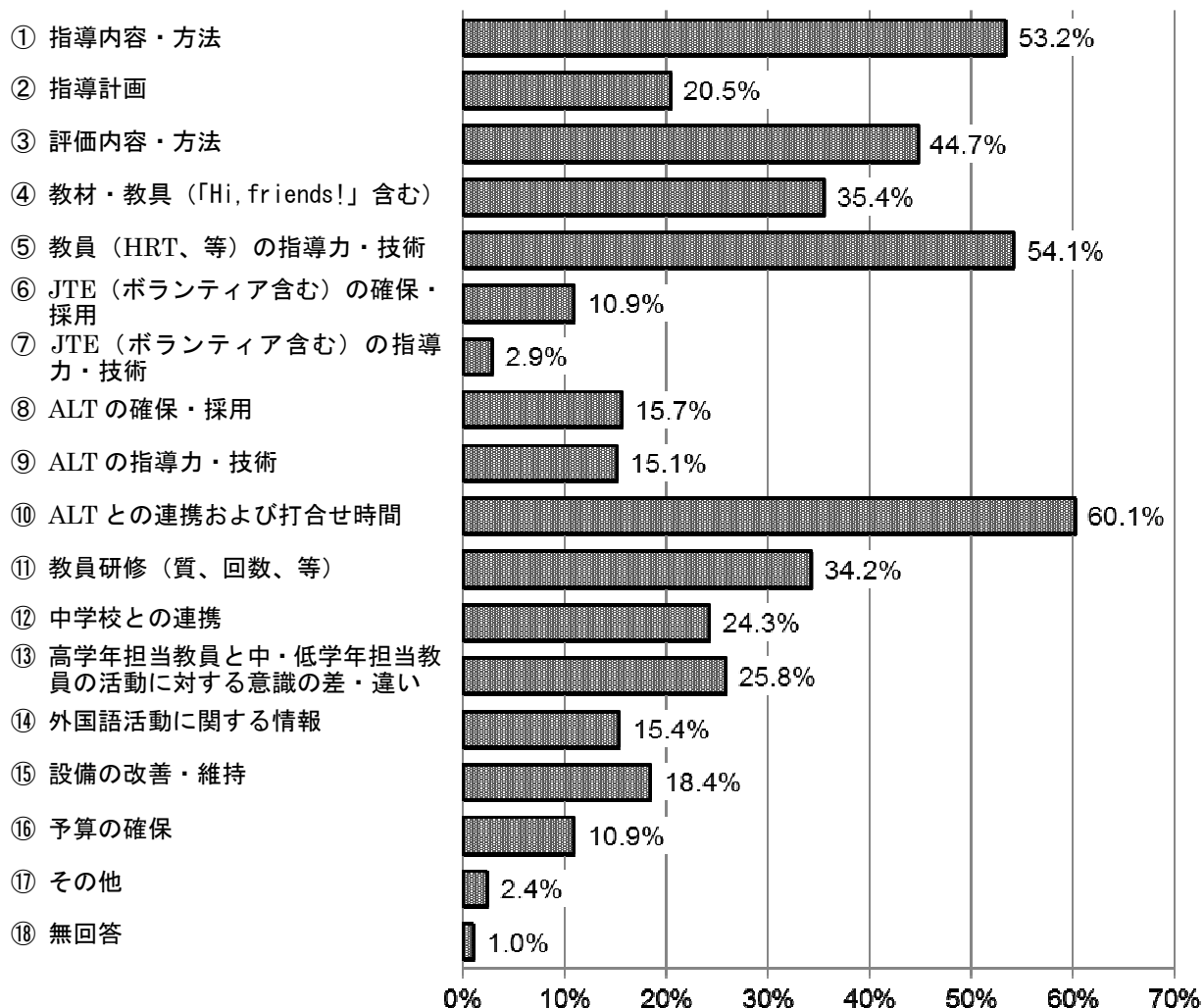
問 7. 現在、外国語活動において、貴校で問題や課題であると感じていることはありますか



◎通常集計

選択肢	回答数	N=1,309
① 指導内容・方法	697	53.2%
② 指導計画	268	20.5%
③ 評価内容・方法	585	44.7%
④ 教材・教具（「Hi, friends!」含む）	464	35.4%
⑤ 教員（HRT、等）の指導力・技術	708	54.1%
⑥ JTE（ボランティア含む）の確保・採用	143	10.9%
⑦ JTE（ボランティア含む）の指導力・技術	38	2.9%
⑧ ALTの確保・採用	205	15.7%
⑨ ALTの指導力・技術	198	15.1%
⑩ ALTとの連携および打合せ時間	787	60.1%
⑪ 教員研修（質、回数、等）	448	34.2%
⑫ 中学校との連携	318	24.3%
⑬ 高学年担当教員と中・低学年担当教員の活動に対する意識の差・違い	338	25.8%
⑭ 外国語活動に関する情報	201	15.4%
⑮ 設備の改善・維持	241	18.4%
⑯ 予算の確保	143	10.9%
⑰ その他	31	2.4%
⑱ 無回答	13	1.0%

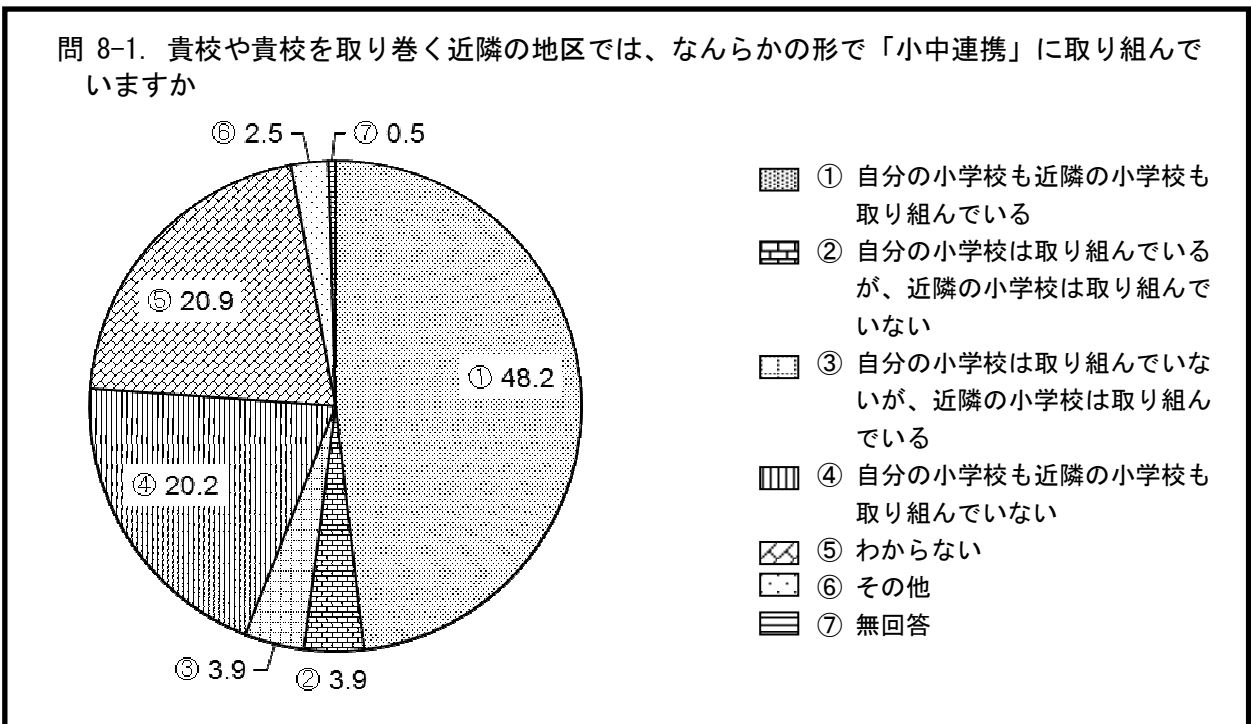
問7. 現在、外国語活動において、貴校で問題や課題であると感じていることはありますか



問 8. 外国語活動の導入をふまえた小学校と中学校との連携（小中連携）について伺います。
 問 8-1. 貴校や貴校を取り巻く近隣の地区では、なんらかの形で「小中連携」に取り組んでいますか。
 該当するものを1つだけ選んでください。

小中連携について「① 自分の小学校も近隣の小学校も取り組んでいる」という回答は48.2%ともっとも多く、「② 自分の小学校は取り組んでいるが、近隣の小学校は取り組んでいない」(3.9%)を加えると、半数を超える小学校が取り組んでいることが分かった。一方、「④ 自分の小学校も近隣の小学校も取り組んでいない」が20.2%あり、小中連携の取り組みがない地区も多いことが判明した。

選択肢	回答数	N=1,304
① 自分の小学校も近隣の小学校も取り組んでいる	628	48.2%
② 自分の小学校は取り組んでいるが、近隣の小学校は取り組んでいない	51	3.9%
③ 自分の小学校は取り組んでいないが、近隣の小学校は取り組んでいる	51	3.9%
④ 自分の小学校も近隣の小学校も取り組んでいない	263	20.2%
⑤ わからない	273	20.9%
⑥ その他	32	2.5%
⑦ 無回答	6	0.5%

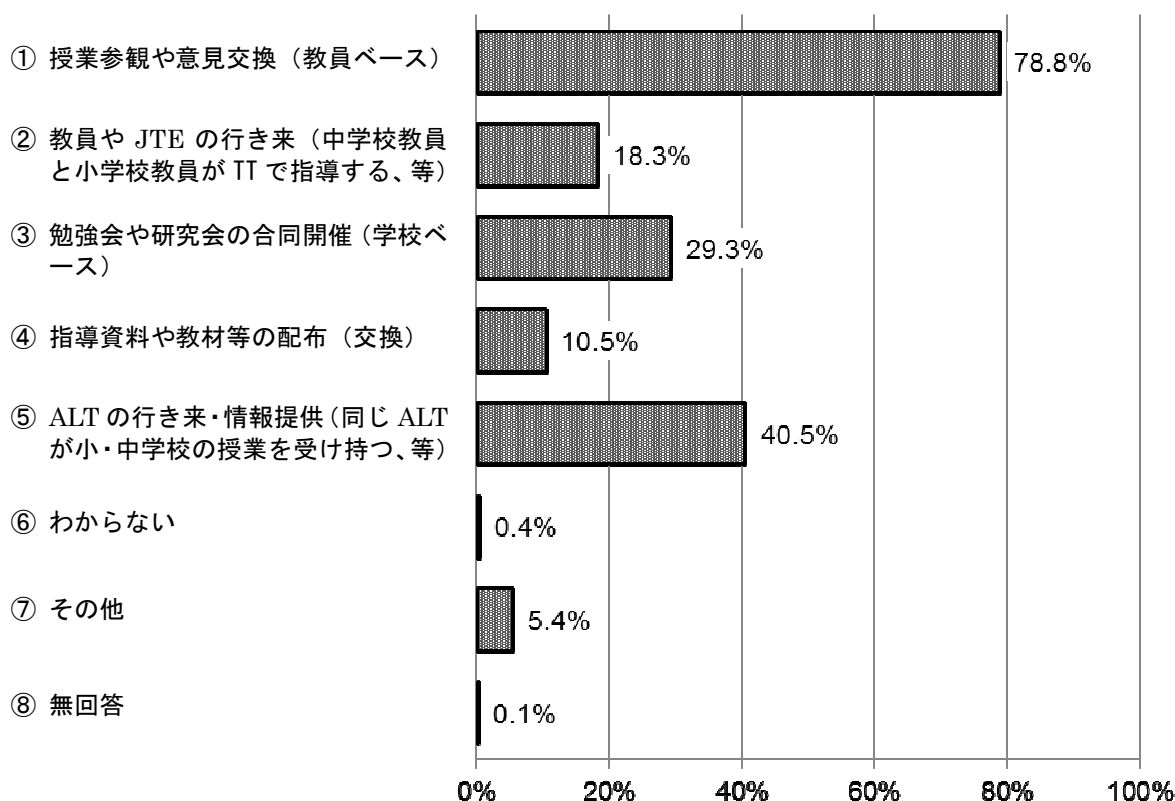


問 8-2. 《問 8-1 で 1 または 2 のいずれかの選択肢を選んだ方に伺います。》貴校では、どのような方法で「小中連携」を行っていますか。該当するものをすべて選んでください。

小中連携に取り組んでいる小学校が行っている方法については、78.8%が「① 授業参観や意見交換（教員ベース）」を挙げた。続いて多かったのは「⑤ ALT の行き来・情報提供（同じ ALT が小・中学校の授業を受け持つ、等）」の 40.5%で、さらに「③ 勉強会や研究会の合同開催（学校ベース）」の 29.3%、「② 教員や JTE の行き来（中学校教員と小学校教員が TT で指導する、等）」の 18.3%、「④ 指導資料や教材等の配布（交換）」の 10.5%の順になっている。

選択肢	回答数	N=679
① 授業参観や意見交換（教員ベース）	535	78.8%
② 教員や JTE の行き来（中学校教員と小学校教員が TT で指導する、等）	124	18.3%
③ 勉強会や研究会の合同開催（学校ベース）	199	29.3%
④ 指導資料や教材等の配布（交換）	71	10.5%
⑤ ALT の行き来・情報提供（同じ ALT が小・中学校の授業を受け持つ、等）	275	40.5%
⑥ わからない	3	0.4%
⑦ その他	37	5.4%
⑧ 無回答	1	0.1%

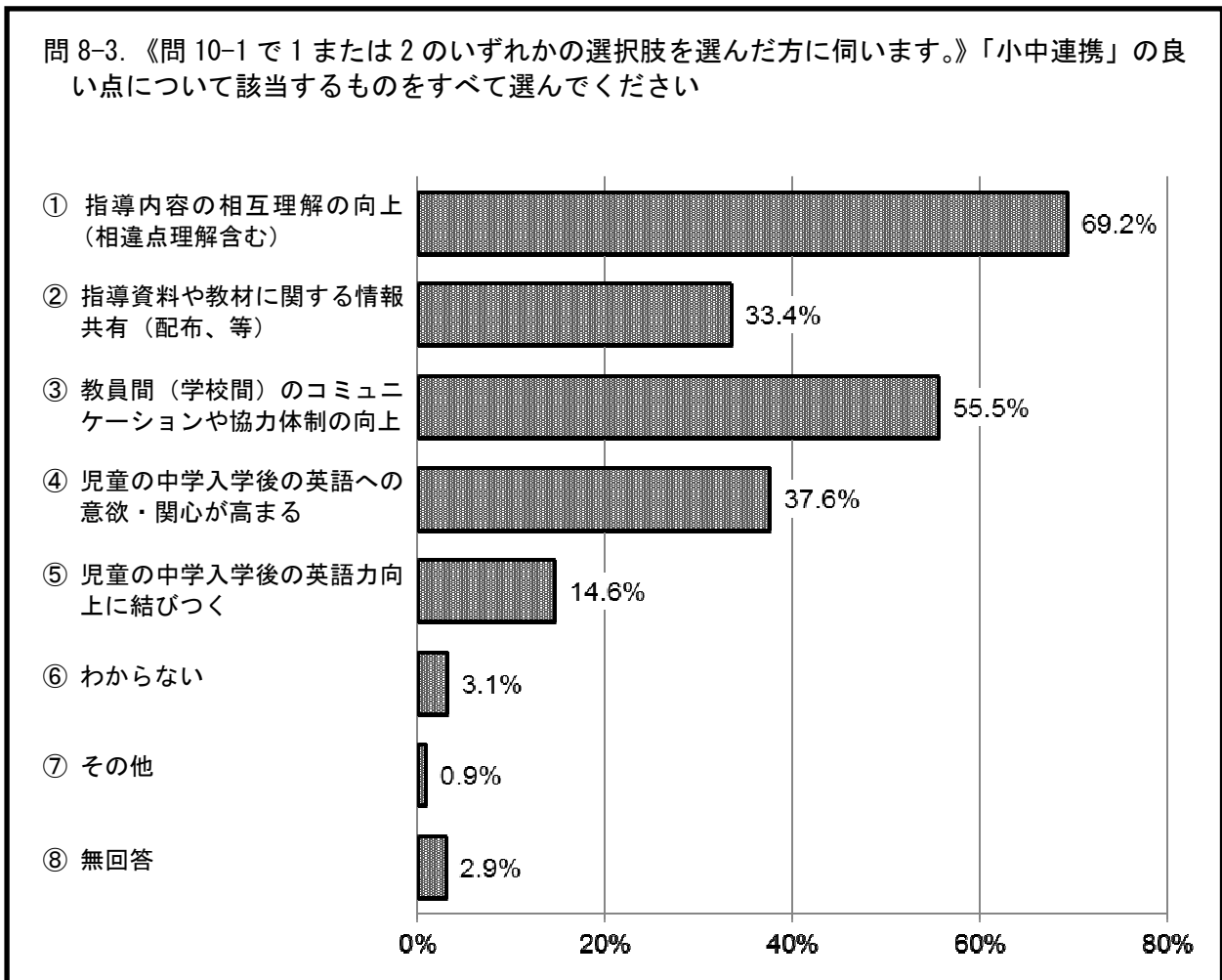
問 8-2. 《問 10-1 で 1 または 2 のいずれかの選択肢を選んだ方に伺います。》貴校では、どのような方法で「小中連携」を行っていますか



問 8-3. 《問 8-1 で 1 または 2 のいずれかの選択肢を選んだ方に伺います。》「小中連携」の良い点について該当するものをすべて選んでください。

小中連携の良い点として半数以上の小学校が「① 指導内容の相互理解の向上（相違点理解含む）」（69.2%）、「③ 教員間（学校間）のコミュニケーションや協力体制の向上」（55.5%）を挙げた。さらに3分の1程度の小学校が「④ 児童の中学入学後の英語への意欲・関心が高まる」（37.6%）、「② 指導資料や教材に関する情報共有（配布、等）」（33.4%）を選んでいる。小中連携を「⑤ 児童の中学入学後の英語力向上に結びつく」としたのは14.6%で、他の項目よりも少なかった。

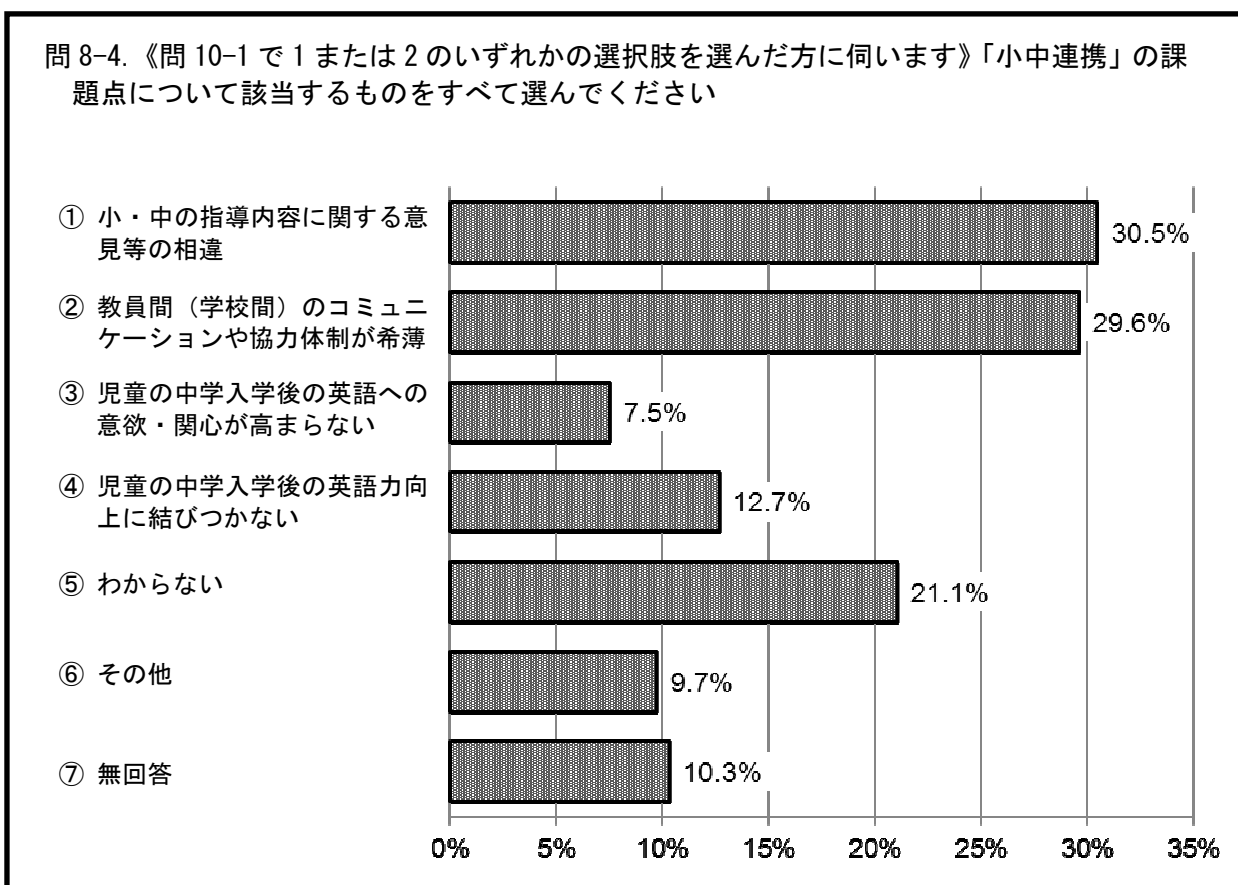
選択肢	回答数	N=679
① 指導内容の相互理解の向上（相違点理解含む）	470	69.2%
② 指導資料や教材に関する情報共有（配布、等）	227	33.4%
③ 教員間（学校間）のコミュニケーションや協力体制の向上	377	55.5%
④ 児童の中学入学後の英語への意欲・関心が高まる	255	37.6%
⑤ 児童の中学入学後の英語力向上に結びつく	99	14.6%
⑥ わからない	21	3.1%
⑦ その他	6	0.9%
⑧ 無回答	20	2.9%



問 8-4. 《問 8-1 で 1 または 2 のいずれかの選択肢を選んだ方に伺います。》「小中連携」の課題点について該当するものをすべて選んでください。

小中連携を行っている小学校が挙げた課題点をみると、「① 小・中の指導内容に関する意見等の相違」(30.5%)、「② 教員間(学校間)のコミュニケーションや協力体制が希薄」(29.6%)が同程度の割合で多かった。また、「④ 児童の中学入学後の英語力向上に結びつかない」(12.7%)、「③ 児童の中学入学後の英語への意欲・関心が高まらない」(7.5%)と活動成果や児童の態度に反映しない課題も1割前後の小学校が選択した。「⑤ わからない」の回答も21.1%と比較的多かった。

選択肢	回答数	N=679
① 小・中の指導内容に関する意見等の相違	207	30.5%
② 教員間(学校間)のコミュニケーションや協力体制が希薄	201	29.6%
③ 児童の中学入学後の英語への意欲・関心が高まらない	51	7.5%
④ 児童の中学入学後の英語力向上に結びつかない	86	12.7%
⑤ わからない	143	21.1%
⑥ その他	66	9.7%
⑦ 無回答	70	10.3%



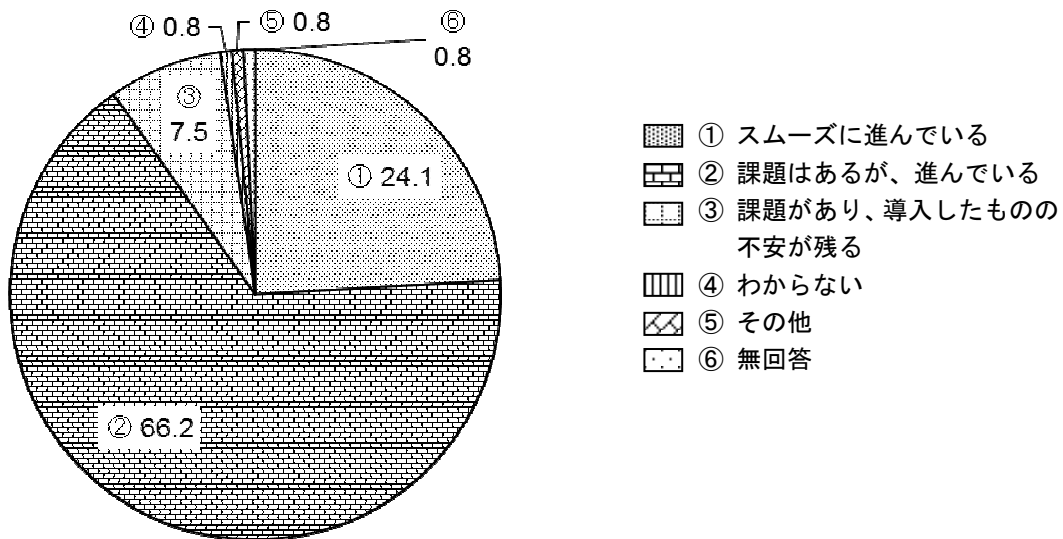
問9. 外国語活動必修化が導入されてから1年以上が経ちましたが、貴校では5・6年生での外国語活動がスムーズに進んでいると思いますか。該当するものを1つだけ選んでください。

必修化後の外国語活動を聞いたところ、「② 課題はあるが、進んでいる」が66.2%と3分の2に達しており、「① スムーズに進んでいる」の24.1%を合わせると9割以上は取り組みが進んでいることが分かった。「③ 課題があり、導入したものの不安が残る」が7.5%だった。

これは前年度と同様の傾向ではあるが、「① スムーズに進んでいる」が12ポイント低くなり、逆に「③ 課題があり、導入したものの不安が残る」が1.4ポイント高くなっている。「② 課題はあるが、進んでいる」が約10ポイントアップしているので取り組みは着実に進んでいるが、必修化から時間の経過とともによりスムーズに進んでいるとまでは言えない傾向を示した。

選択肢	回答数	N=1,309
① スムーズに進んでいる	315	24.1%
② 課題はあるが、進んでいる	866	66.2%
③ 課題があり、導入したものの不安が残る	98	7.5%
④ わからない	10	0.8%
⑤ その他	10	0.8%
⑥ 無回答	10	0.8%

問9. 外国語活動必修化が導入されてから1年以上が経ちましたが、貴校では5・6年生での外国語活動がスムーズに進んでいると思いますか



問 10. 外国語活動及び英語活動の導入が、小学校や児童に与える影響や変化について伺います。
 問 10-1. 外国語活動及び英語活動の導入によって、貴校にとってどのような影響がある（あった）
 と思いますか。該当するものをすべて選んでください。

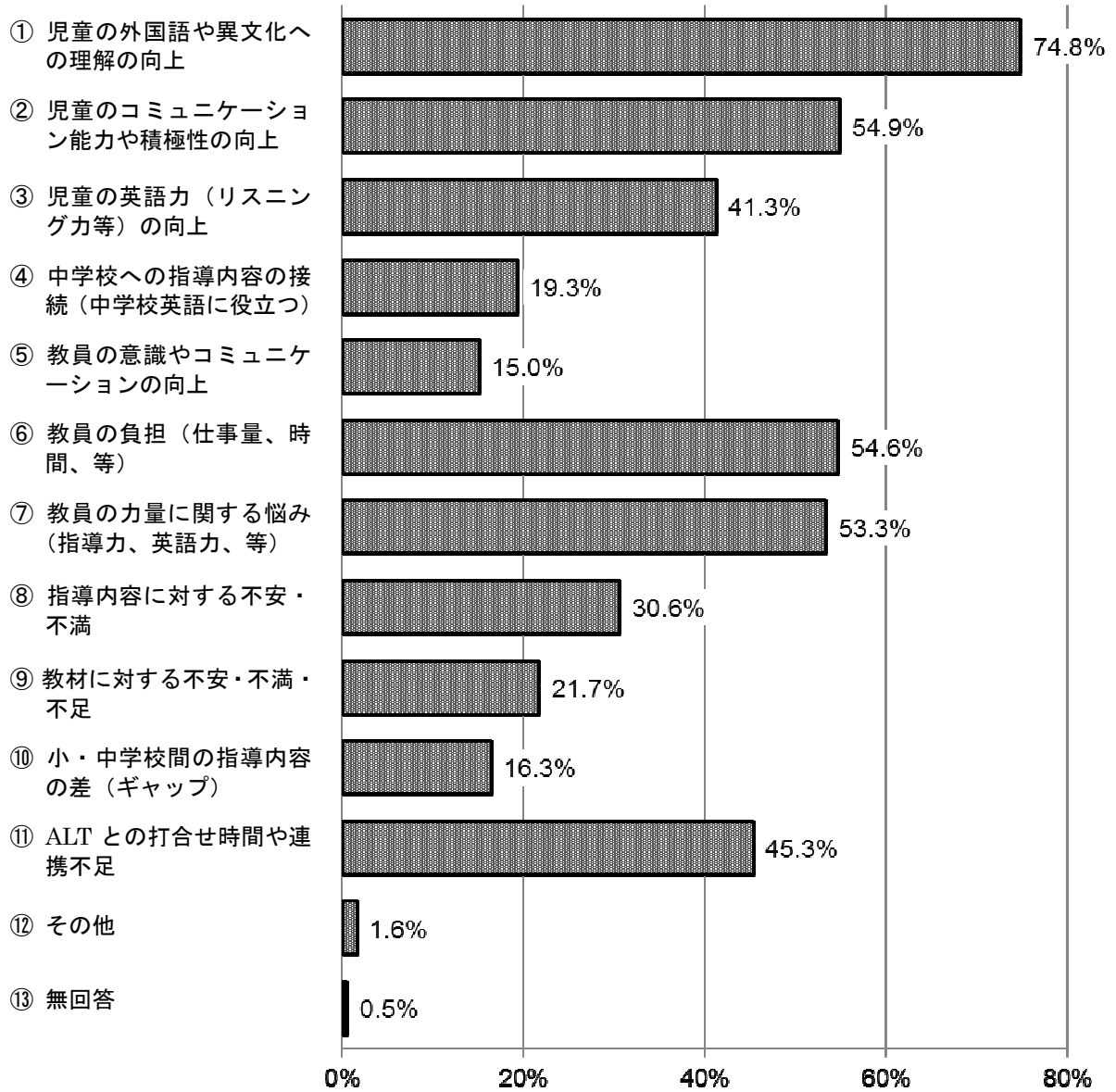
外国語活動及び英語活動の導入が小学校に与える影響について、最も多かった回答は「① 児童の外国語や異文化への理解の向上」の 74.8%で、「② 児童のコミュニケーション能力や積極性の向上」の 54.9%と肯定的な内容が続いた。

一方、「⑥ 教員の負担（仕事量、時間、等）」（54.6%）、「⑦ 教員の力量に関する悩み（指導力、英語力、等）」（53.3%）と負担や力量への影響を半数以上が挙げた。

「③ 児童の英語力（リスニング力等）の向上」の 41.3%、「⑧ 指導内容に対する不安・不満」の 30.6%、「⑨ 教材に対する不安・不満・不足」の 21.7%など、学校現場では肯定的な影響と否定的な影響が混在しているようだ。

選択肢	回答数	N=1,309
① 児童の外国語や異文化への理解の向上	979	74.8%
② 児童のコミュニケーション能力や積極性の向上	718	54.9%
③ 児童の英語力（リスニング力等）の向上	540	41.3%
④ 中学校への指導内容の接続（中学校英語に役立つ）	252	19.3%
⑤ 教員の意識やコミュニケーションの向上	197	15.0%
⑥ 教員の負担（仕事量、時間、等）	715	54.6%
⑦ 教員の力量に関する悩み（指導力、英語力、等）	698	53.3%
⑧ 指導内容に対する不安・不満	400	30.6%
⑨ 教材に対する不安・不満・不足	284	21.7%
⑩ 小・中学校間の指導内容の差（ギャップ）	214	16.3%
⑪ ALT との打合せ時間や連携不足	593	45.3%
⑫ その他	21	1.6%
⑬ 無回答	6	0.5%

問 10-1. 外国語活動及び英語活動の導入によって、貴校にとってどのような影響がある
(あった) と思いますか

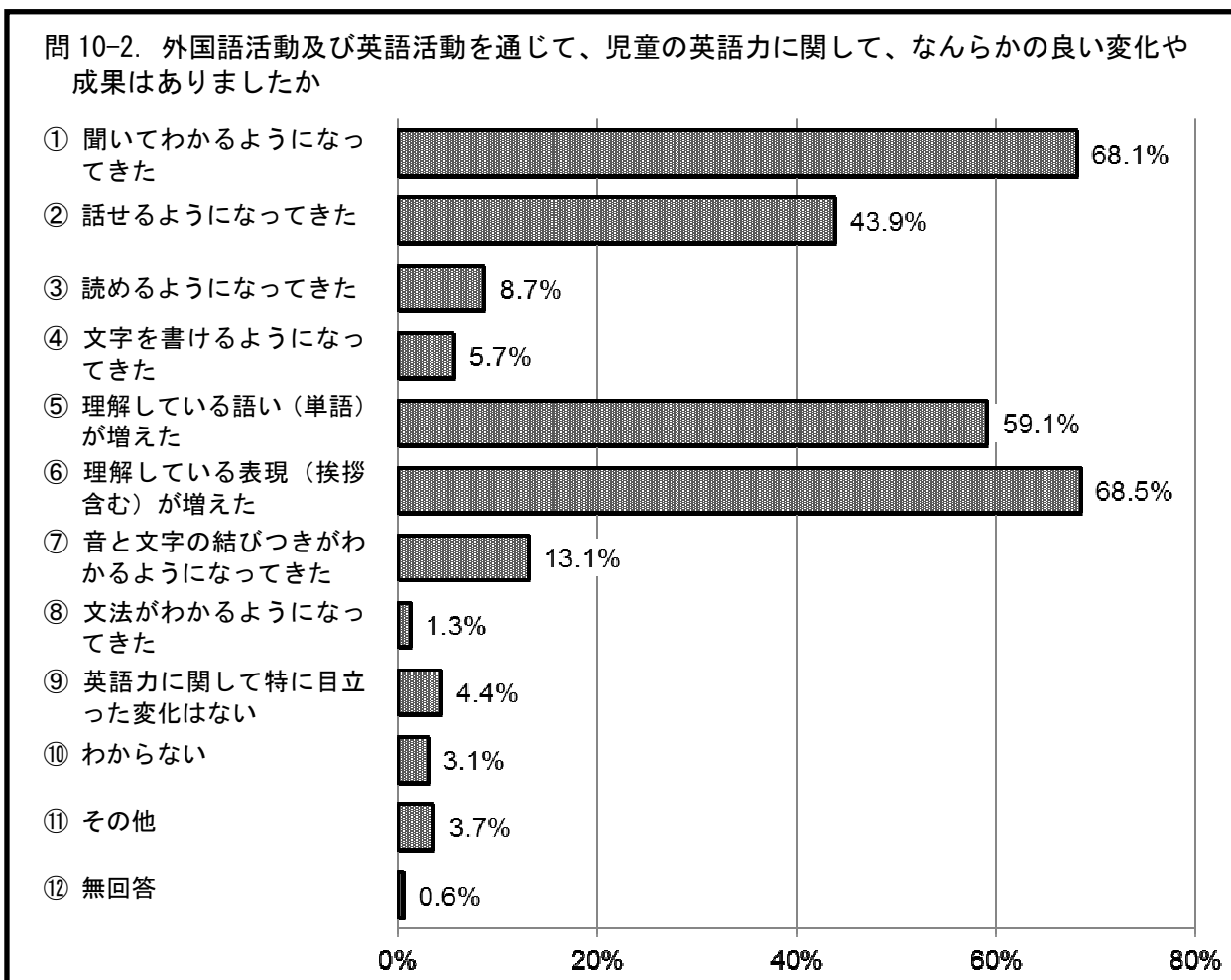


問 10-2. 外国語活動及び英語活動を通じて、児童の英語力に関して、なんらかの良い変化や成果はありましたか。該当するものをすべて選んでください。

児童の英語力に関して良い影響を聞いたところ、7割近い学校が「⑥ 理解している表現（挨拶含む）が増えた」（68.5%）、「① 聞いてわかるようになってきた」（68.1%）を挙げ、6割近い学校が「⑤ 理解している語い（単語）が増えた」（59.1%）と答えた。

そのほか、「② 話せるようになってきた」（43.9%）も比較的多かった。「⑨ 英語力に関して特に目立った変化はない」は4.4%にとどまり、多くの学校が成果を感じているようだ。

選択肢	回答数	N=1,309
① 聞いてわかるようになってきた	892	68.1%
② 話せるようになってきた	574	43.9%
③ 読めるようになってきた	114	8.7%
④ 文字を書けるようになってきた	74	5.7%
⑤ 理解している語い（単語）が増えた	774	59.1%
⑥ 理解している表現（挨拶含む）が増えた	897	68.5%
⑦ 音と文字の結びつきがわかるようになってきた	172	13.1%
⑧ 文法がわかるようになってきた	17	1.3%
⑨ 英語力に関して特に目立った変化はない	58	4.4%
⑩ わからない	40	3.1%
⑪ その他	48	3.7%
⑫ 無回答	8	0.6%



問 10-3. 外国語活動及び英語活動に関して、先生ご自身が欲しいと思われる情報がありますか。
 下記の項目の中で該当するものについて、すべて選んでください（5については、1～4以外の情報があればご記入ください）。さらに、具体的な内容があれば[]にご記入ください。

外国語活動及び英語活動に関する希望を聞いたところ、「④ 教材・教具に関する情報」（43.0%）が最も多く、「③ 先生ご自身の英語力や指導力向上に関する情報」（36.1%）、「① 他校（他の地域）の事例等に関する情報」（31.4%）も3割以上の回答があった。

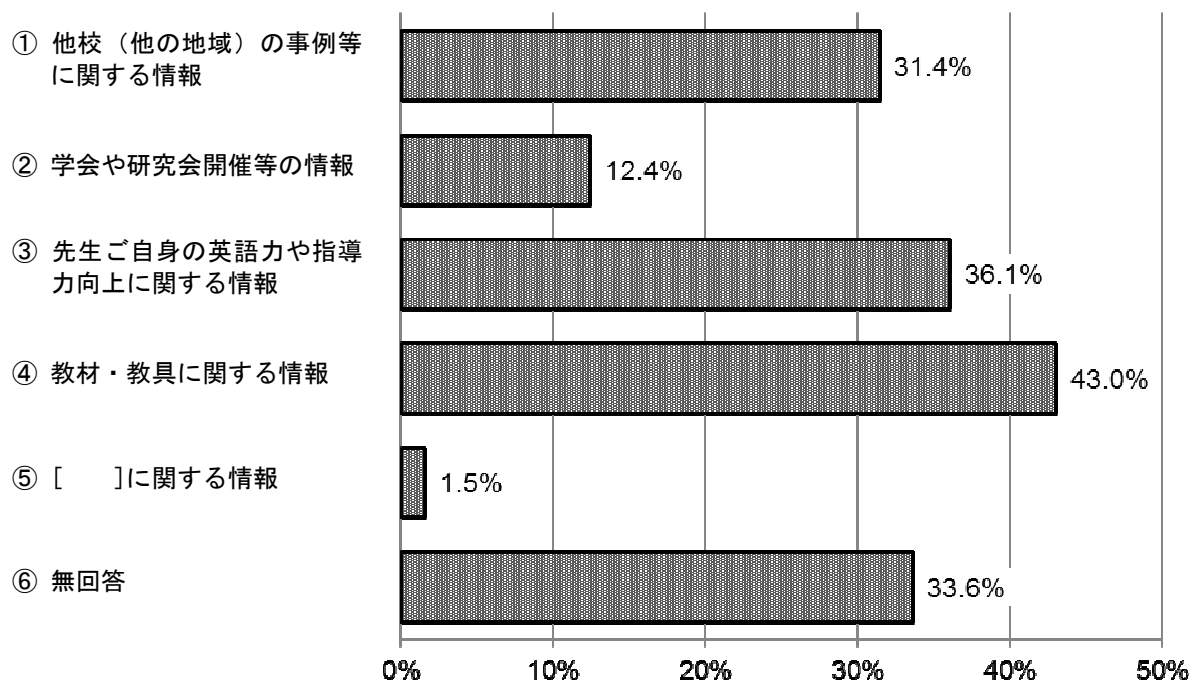
具体的な内容（記述）をみると、「④ 教材・教具に関する情報」を選んだ回答では、「役立つ」「すぐに使える」「活用しやすい」教材・教具を希望しており、ゲーム教材やカードなどが挙げられている。

「③ 先生ご自身の英語力や指導力向上に関する情報」を選んだ回答では、研修会や研究会を挙げた内容が目立った。「正しい発音」「英会話力」「指導手法」などが身につけたいスキルようだ。

「① 他校（他の地域）の事例等に関する情報」の回答の具体的な内容では、「指導案」「カリキュラム」「年間指導計画」「実践例」などが多かった。

選択肢	回答数	N=1,309
① 他校（他の地域）の事例等に関する情報	411	31.4%
② 学会や研究会開催等の情報	162	12.4%
③ 先生ご自身の英語力や指導力向上に関する情報	472	36.1%
④ 教材・教具に関する情報	563	43.0%
⑤ []に関する情報	20	1.5%
⑥ 無回答	440	33.6%

問 10-3. 外国語活動及び英語活動に関して、先生ご自身が欲しいと思われる情報はありますか



<平成 24 年 12 月調査>

小学校の外国語活動及び英語活動等に関する現状調査

《国公立私立小学校対象》

報告書

平成 25 年 7 月

公益財団法人 日本英語検定協会

教育研究センター

〒162-8055 東京都新宿区横寺町 55
Tel. 03-3266-6706/Fax. 03-3266-6740
